
三田市
在宅介護実態調査
報告書

令和 8 年 5 月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 留意点	1
2. 対象者の属性	2
(1) 回答の記入者	2
(2) 世帯類型	2
3. 家族等による介護について	3
(1) 介護の頻度	3
(2) 主な介護者の属性	4
(3) 主な介護者が行う介護の内容	6
(4) 介護離職	8
4. 支援・サービスについて	13
(1) 介護保険サービス以外の支援・サービス	13
(2) 介護保険サービス	15
(3) 施設等への入所・入居の検討状況	16
(4) 医療的な支援・サービス	17
5. その他の項目について	19
6. 在宅生活継続に向けた5つの検討項目における集計結果	21
(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	23
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの検討	32
(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	42
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	46
(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	50

1. 調査概要

(1) 調査目的

この調査は、令和9年度から令和11年度までの「三田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（いきいき安心プラン 21）」の策定を行うにあたって、介護離職を防止する観点も踏まえたサービス提供体制を構築するため、「要介護者が安心して在宅生活を続けること」「家族等介護者の就労の継続」に有効な介護サービスの在り方を検討するために実施しました。

(2) 調査の実施について

調査種類	在宅介護実態調査
対象者	三田市内に住む高齢者 1,200 人 (要支援・要介護認定を受けている方から無作為抽出)
実施期間	令和8年1月21日(水)～令和8年2月12日(木)
実施方法	郵送配布、郵送回収またはWEB回収(回収率向上のための礼状兼督促はがきを実施)
回収状況	配布数：1,200 件 有効回収数：742 件(郵送：672 件、WEB：70 件) 有効回答率：61.8%

(3) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、百分率の合計が 100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中に MA (Multiple Answer)、3LA (3 Limited Answer) と記載しています。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
4. 厚労省が推奨する在宅介護実態調査の自動集計分析ソフト（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社作成）を用いて、回答結果と認定データを突合・集計しています。

2. 対象者の属性

(1) 回答の記入者

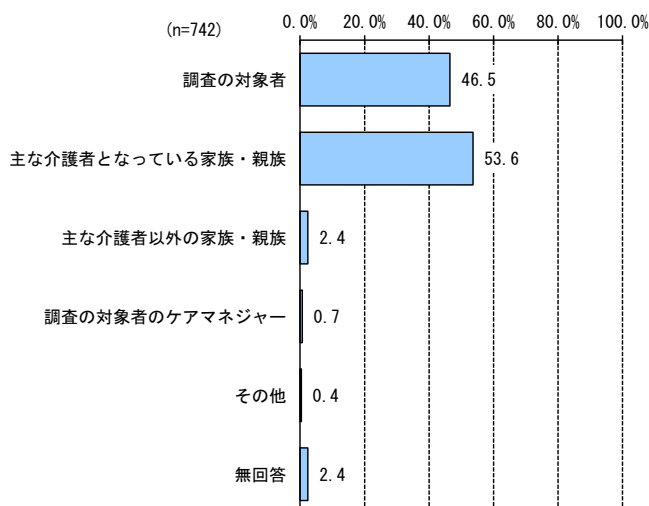
●問1 現在、この調査票にご回答をいただいているのは、どなたですか。(いくつでも)

【全体】

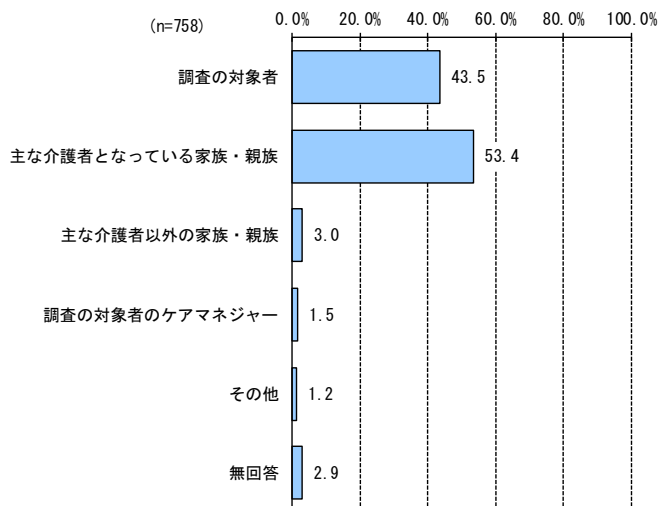
○ 調査の回答者について、「主な介護者となっている家族・親族」が53.6%で最も多く、次いで「調査の対象者」が46.5%、「主な介護者以外の家族・親族」が2.4%となっています。

【回答者(MA)】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]



(2) 世帯類型

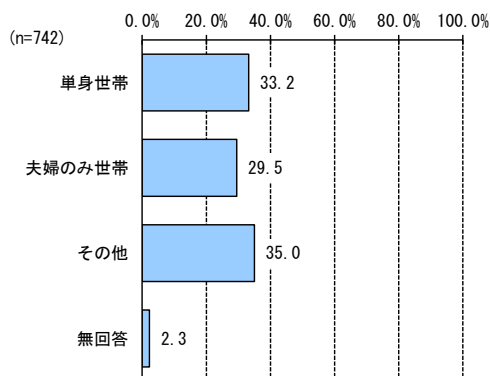
●問2 調査の対象者の世帯類型について、ご回答ください。(1つだけ)

【全体】

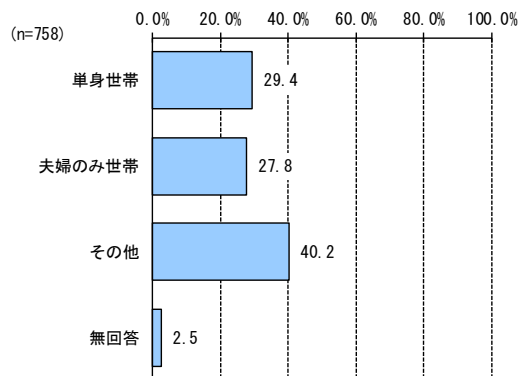
○ 世帯類型について、「その他」が35.0%で最も多く、次いで「単身世帯」が33.2%、「夫婦のみ世帯」が29.5%となっています。

【世帯類型】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]



3. 家族等による介護について

(1) 介護の頻度

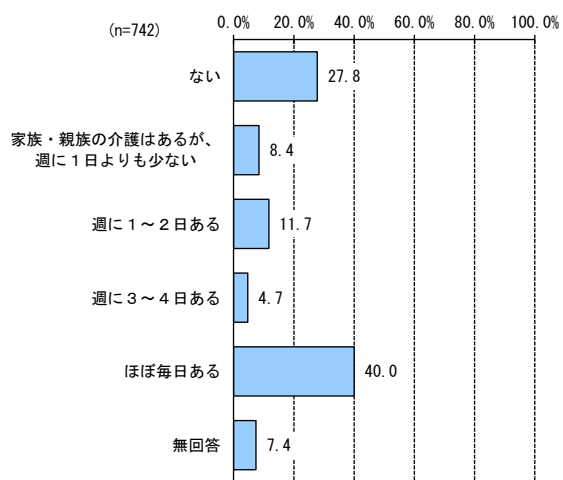
- 問18 調査の対象者は、ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。
(1つだけ)

【全体】

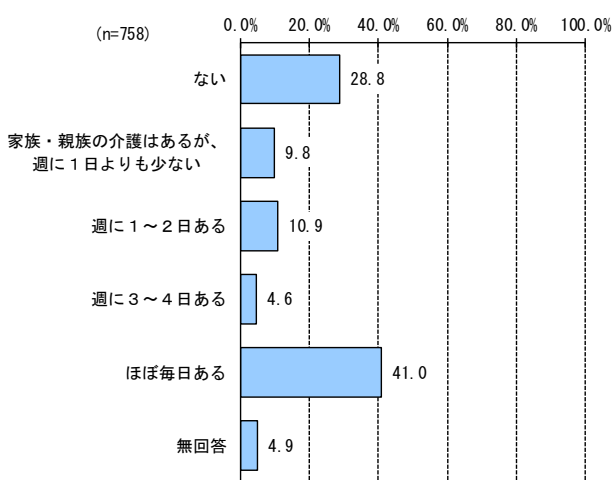
○ 介護の頻度について、「ほぼ毎日ある」が 40.0%で最も多く、次いで「ない」が 27.8%、「週に1～2日ある」が 11.7%となっています。

【介護の頻度】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]



(2) 主な介護者の属性

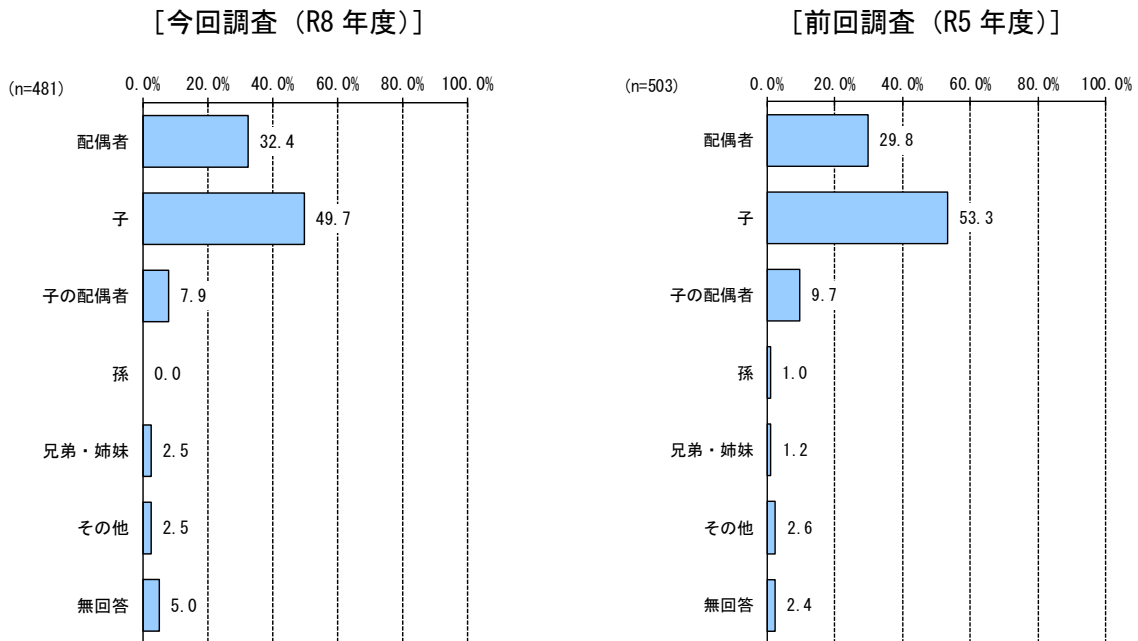
① 主な介護者

- 問20 「家族、親族から介護を受けている方のみ」調査の対象者を、主に介護している方は、どなたですか。（1つだけ）

【全体】

- 主な介護者について、「子」が 49.7%で最も多く、次いで「配偶者」が 32.4%、「子の配偶者」が 7.9%となっています。

【主な介護者】



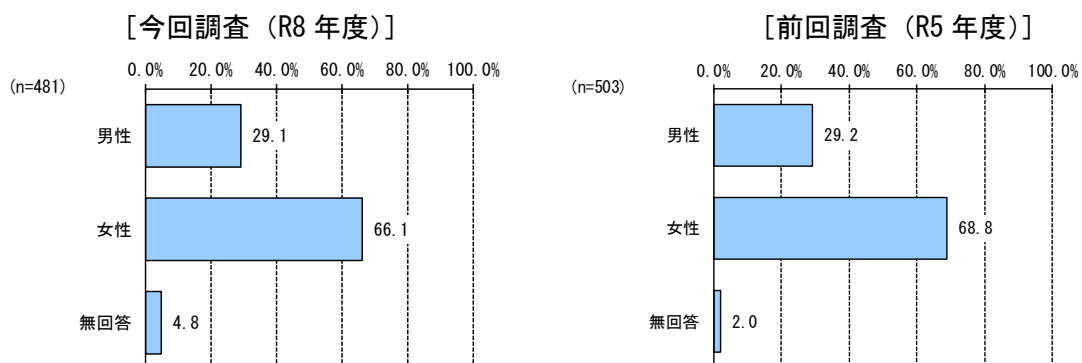
② 主な介護者の性別・年齢

- 問21 「家族、親族から介護を受けている方のみ」調査の対象者を、主に介護している方の性別について、ご回答ください。（1つだけ）

【全体】

- 主な介護者の性別について、「女性」が 66.1%、「男性」が 29.1%、となっています。

【主な介護者の性別】



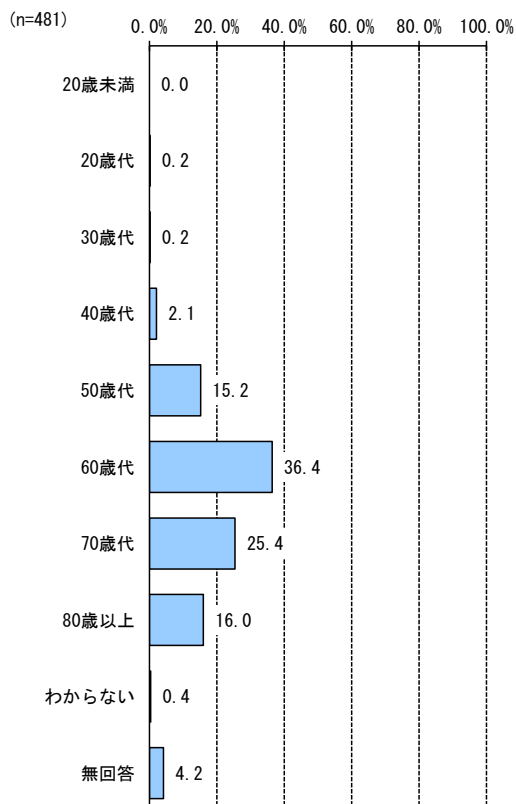
- 問22 「家族、親族から介護を受けている方のみ」調査の対象者を、主に介護している方の年齢について、ご回答ください。（1つだけ）

【全体】

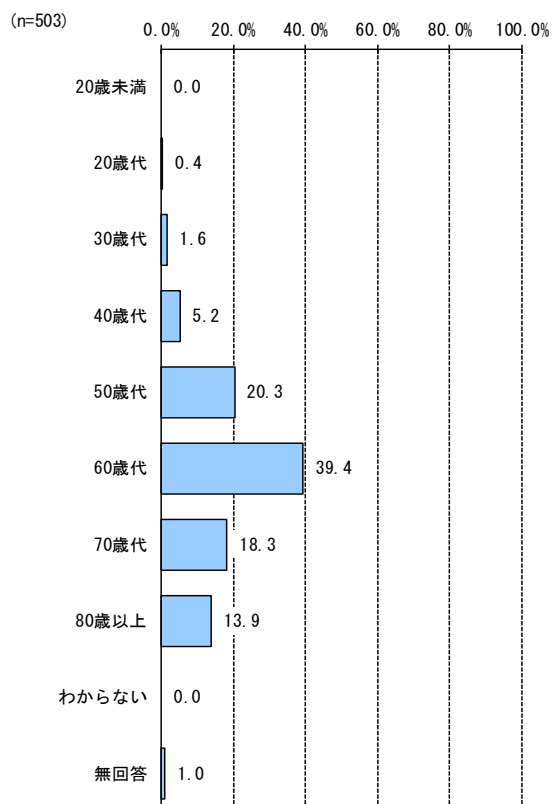
- 主な介護者の年齢について、「60 歳代」以上が 77.8%となっています。
- 前回調査と比べると、「60 歳代」以上は 6.2 ポイント多くなっています。

【主な介護者の年齢】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



(3) 主な介護者が行う介護の内容

① 現在行っている介護

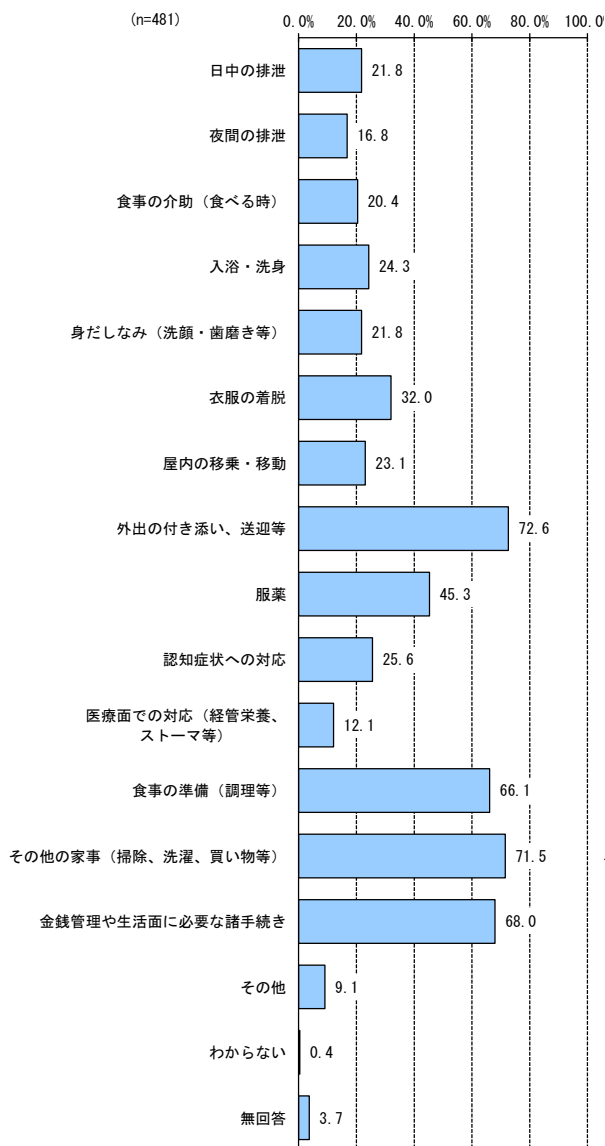
●問23 「家族、親族から介護を受けている方のみ」現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(いくつでも)

【全体】

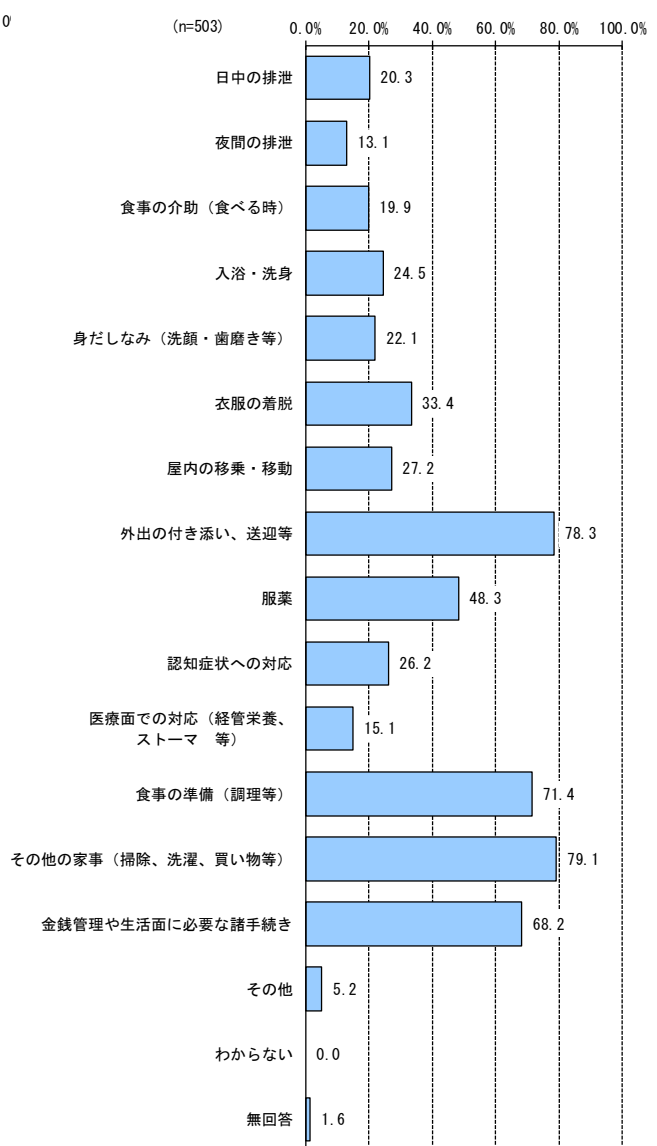
- 主な介護者が行う介護について、「外出の付き添い、送迎等」が72.6%で最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が71.5%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が68.0%となっています。
- 前回調査と比べると、「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」で5ポイント以上少なくなっています。

【主な介護者が行う介護(MA)】

〔今回調査 (R8 年度)〕



〔前回調査 (R5 年度)〕



② 不安に感じる介護

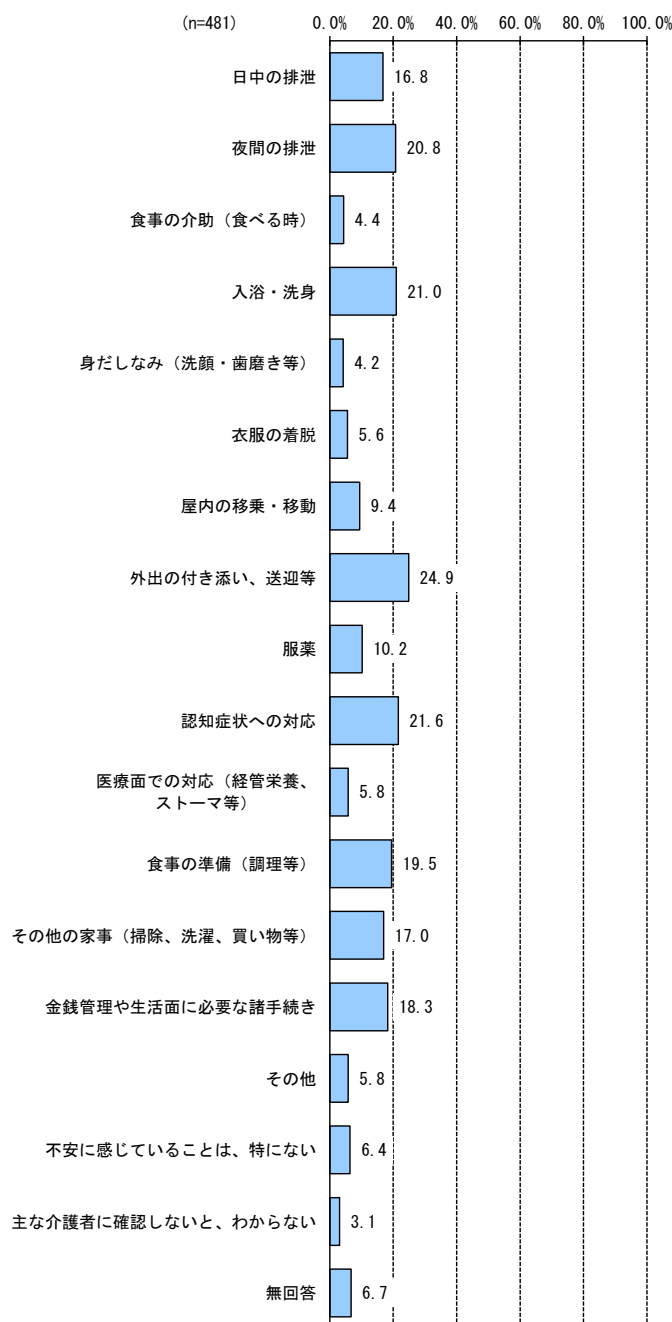
●問24 「家族、親族から介護を受けている方のみ」現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。（3つまで）

【全体】

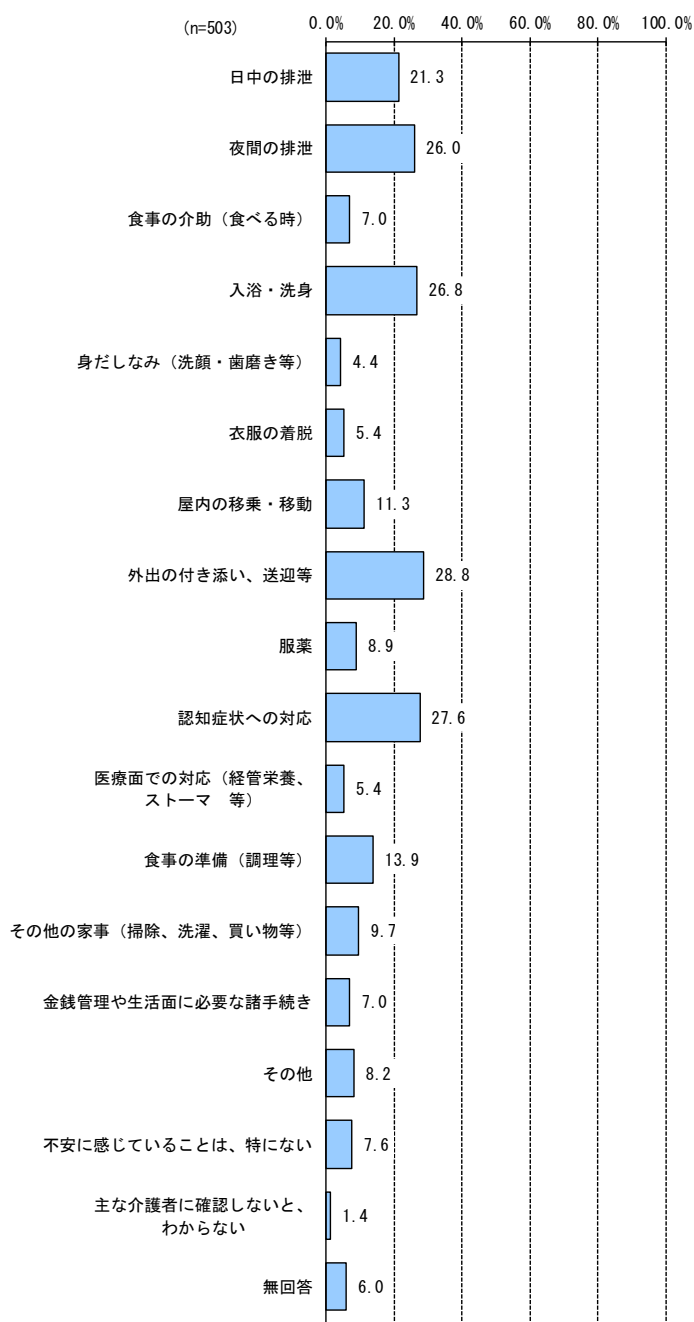
- 主な介護者が不安に感じる介護について、「外出の付き添い、送迎等」が 24.9%で最も多く、次いで「認知症状への対応」が 21.6%、「入浴・洗身」が 21.0%となっています。
- 前回調査と比べると、「夜間の排泄」「入浴・洗身」「認知症状への対応」で5ポイント以上少なくなっています。一方で、「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」で5ポイント以上多くなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



(4) 介護離職

① 介護離職者の有無

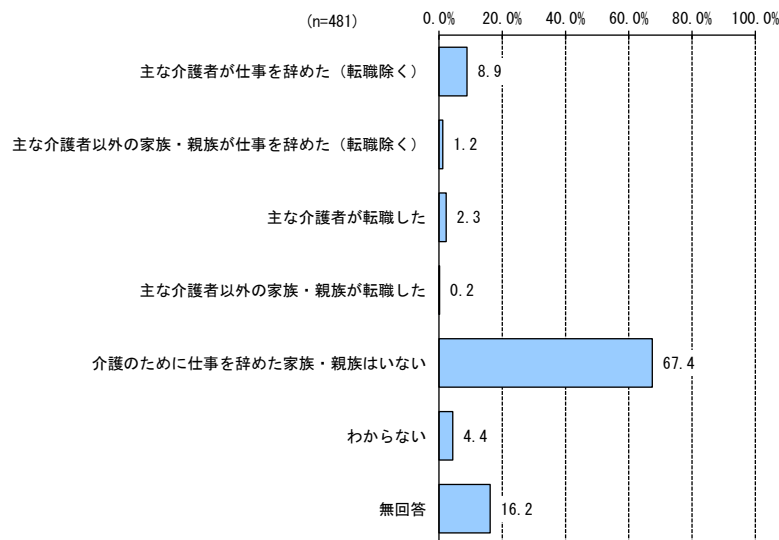
- 問19 「家族、親族から介護を受けている方のみ」 ご家族やご親族の中で、調査の対象者の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。(いくつでも)

【全体】

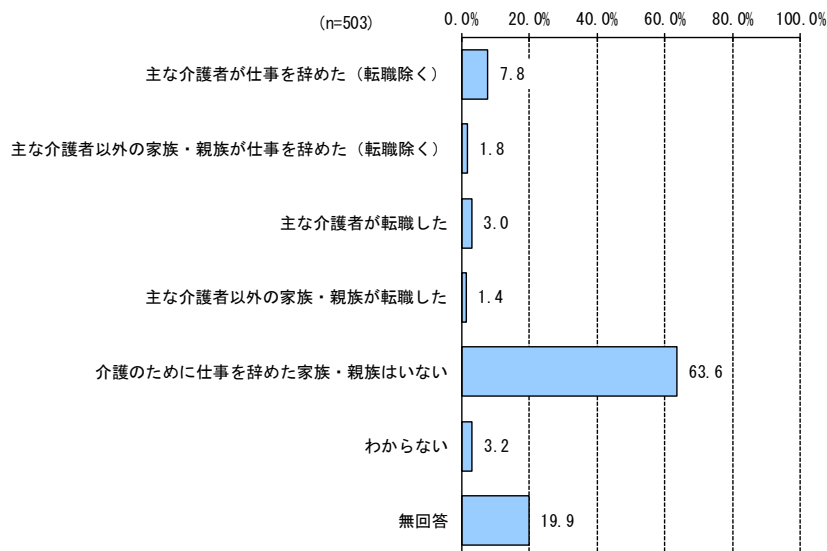
- 介護離職について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が67.4%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が8.9%、「主な介護者が転職した」が2.3%となっています。

【介護離職(MA)】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]



② 主な介護者の勤務形態

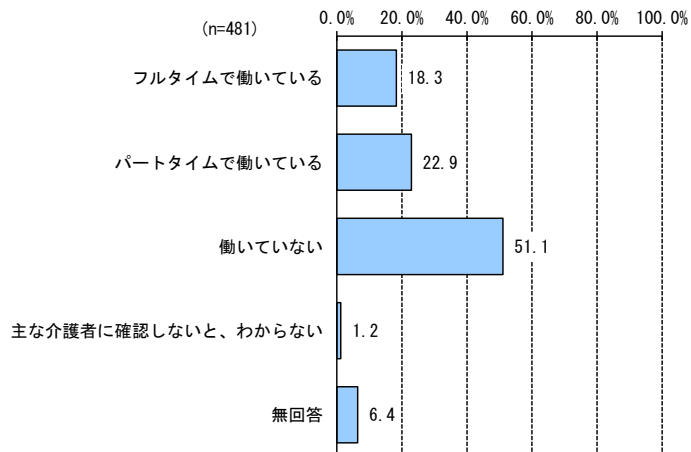
- 問25 「家族、親族から介護を受けている方のみ」主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（1つだけ）

【全体】

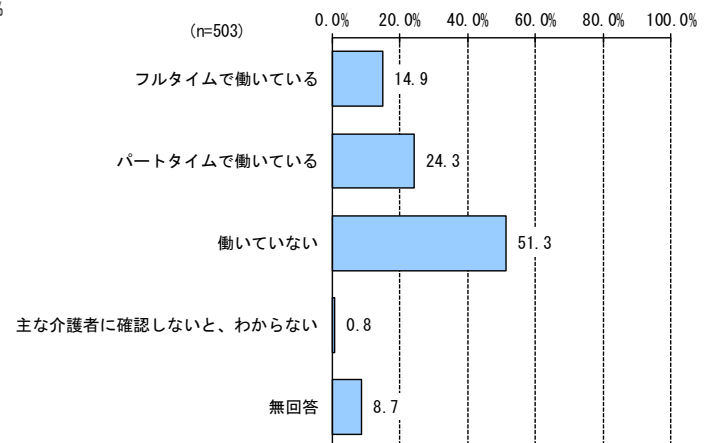
- 主な介護者の勤務形態について、「働いていない」が51.1%で最も多く、次いで「パートタイムで働いている」が22.9%、「フルタイムで働いている」が18.3%となっています。

【主な介護者の勤務形態】

〔今回調査（R8年度）〕



〔前回調査（R5年度）〕



③ 働き方の調整

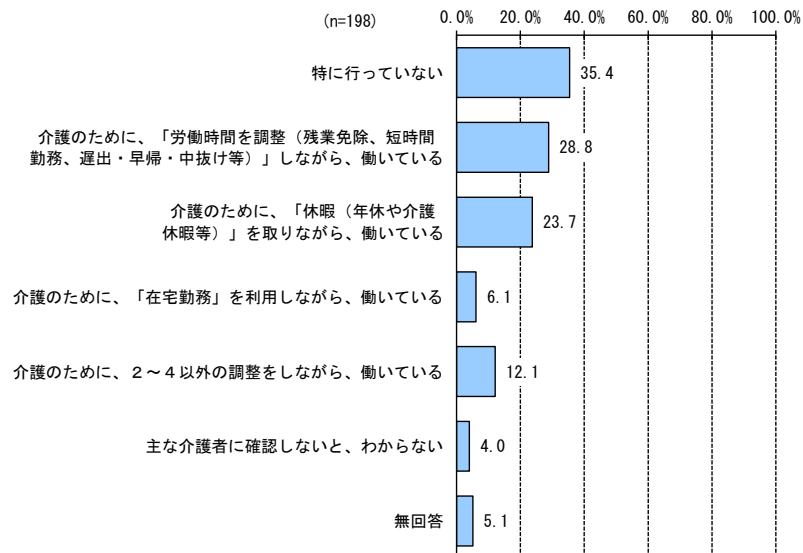
- 問26 「主な介護者が働いている方のみ」主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。(いくつでも)

【全体】

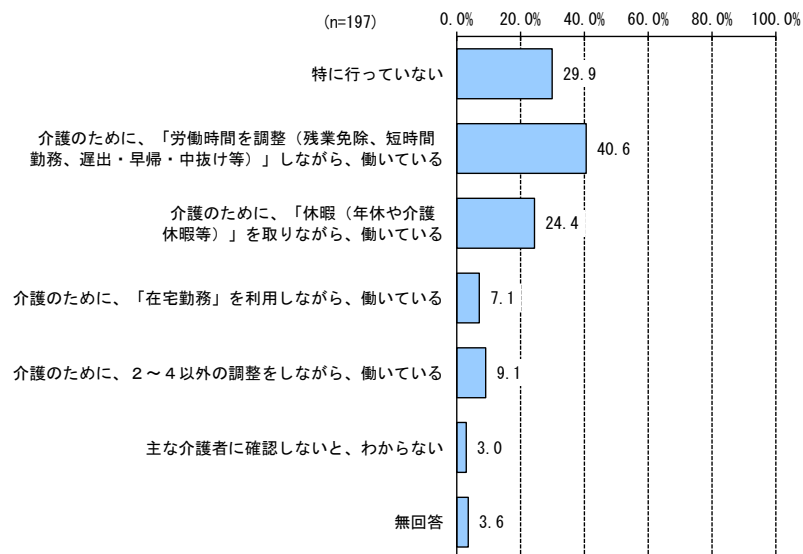
- 働き方の調整について、「特に行っていない」が 35.4%で最も多く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 28.8%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が 23.7%となっています。
- 前回調査と比べると、「特に行っていない」が 5.5 ポイント多く、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 11.8 ポイント少なくなっています。

【働き方の調整 (MA)】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]



④ 今後の介護と仕事の両立

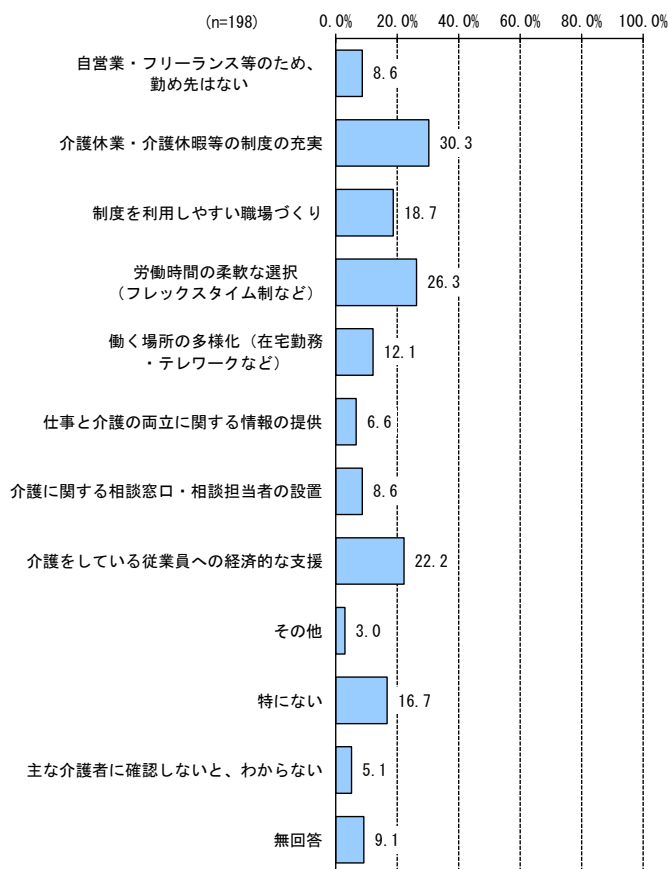
- 問27 「主な介護者が働いている方のみ」主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（3つまで）

【全体】

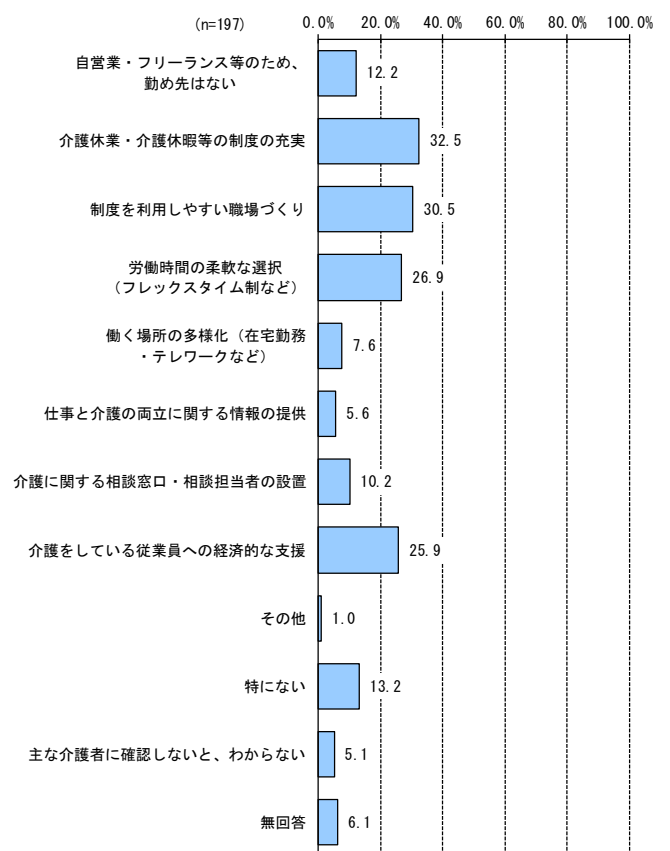
- 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援について、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 30.3%で最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 26.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 22.2%となっています。
- 前回調査と比べると、「制度を利用しやすい職場づくり」が 11.8 ポイント少なくなっています。

【仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援(3LA)】

【今回調査（R8 年度）】



【前回調査（R5 年度）】



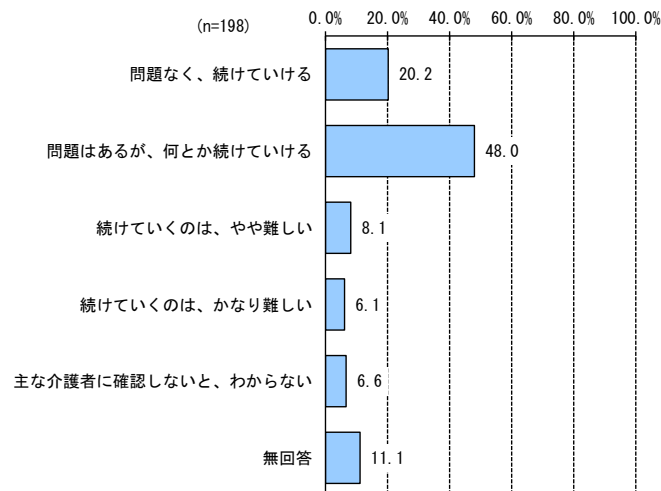
- 問28 〔主な介護者が働いている方のみ〕主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（1 つだけ）

【全体】

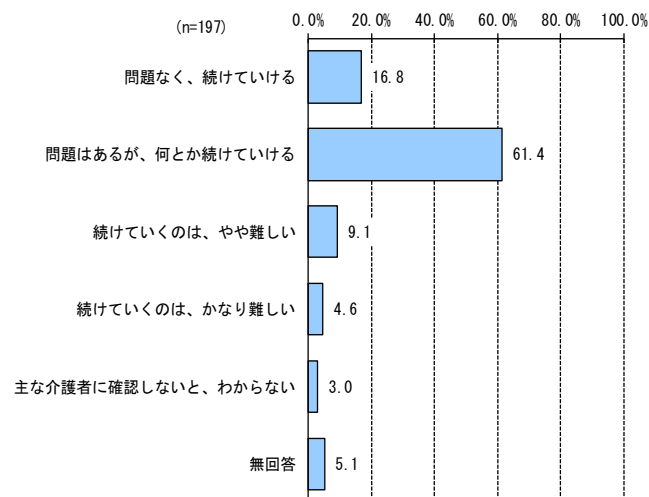
- 今後の仕事と介護の両立見込みについて、「問題はあるが、何とか続けていける」が 48.0% で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が 20.2% となっています。
- 前回調査と比べると、「問題はあるが、何とか続けていける」が 13.4 ポイント少なくなっています。

【今後の仕事と介護の両立】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



4. 支援・サービスについて

(1) 介護保険サービス以外の支援・サービス

① 現在利用している支援・サービス

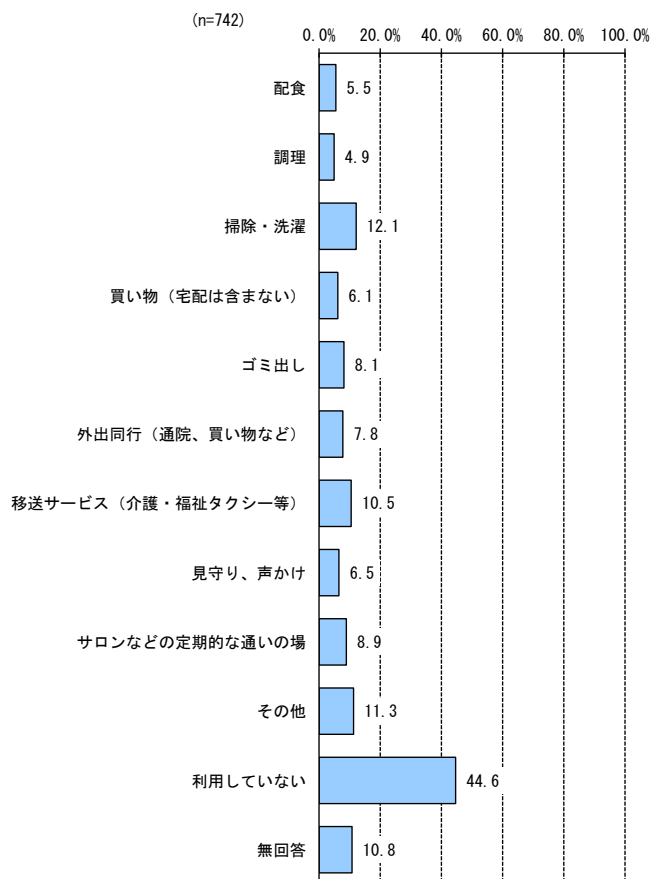
- 問7 現在、調査の対象者が利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(いくつでも)

【全体】

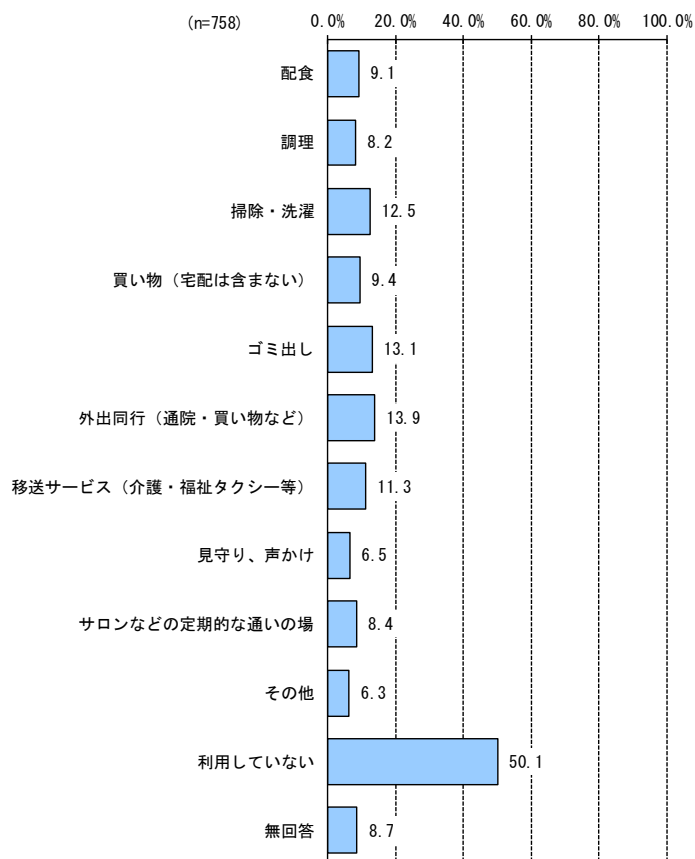
- 「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況について、「利用していない」が44.6%で最も多く、次いで「掃除・洗濯」が12.1%となっています。
- 前回調査と比べると、「ゴミ出し」「外出同行（通院・買い物など）」「利用していない」が5ポイント以上少なくなっています。

【「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況(MA)】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]



② 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

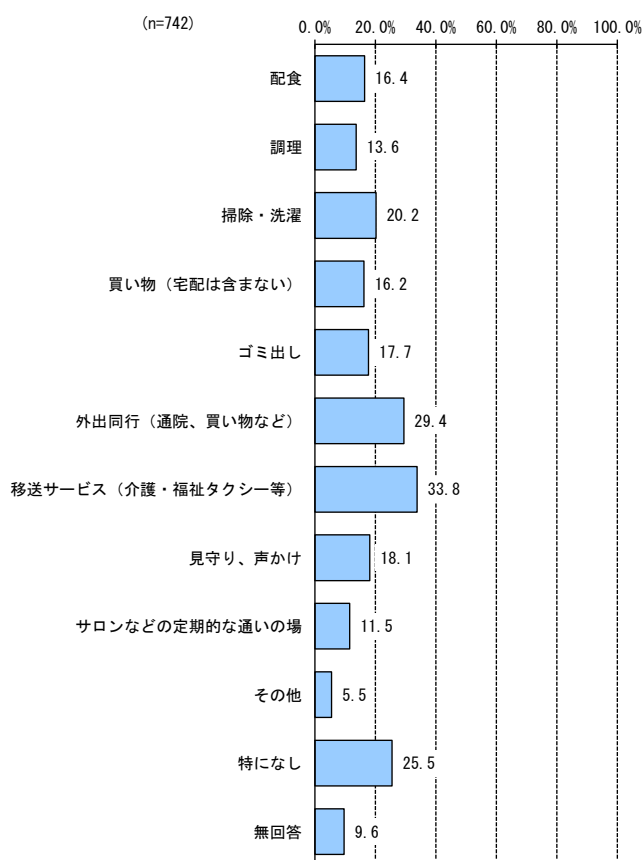
- 問8 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（いくつでも）

【全体】

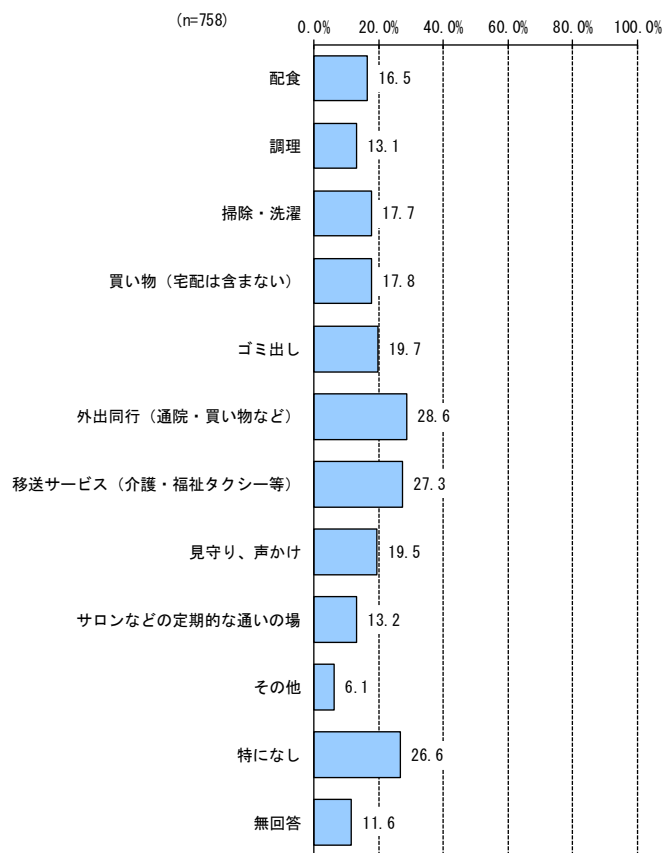
- 在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 33.8%で最も多く、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が 29.4%、「特になし」が 25.5%となっています。
- 前回調査と比べると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 6.5 ポイント多くなっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス (MA)】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



(2) 介護保険サービス

① 利用状況

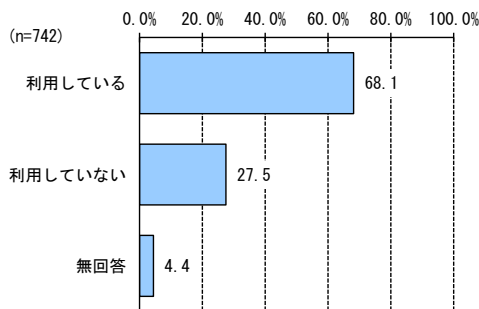
- 問5 調査の対象者は、現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。（1 つだけ）

【全体】

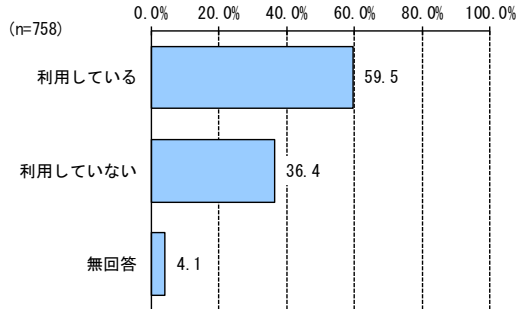
- 住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況について、「利用している」が 68.1%、「利用していない」が 27.5%となっています。
- 前回調査と比べると、「利用している」が 8.6 ポイント多くなっています。

【住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



② 利用していない理由

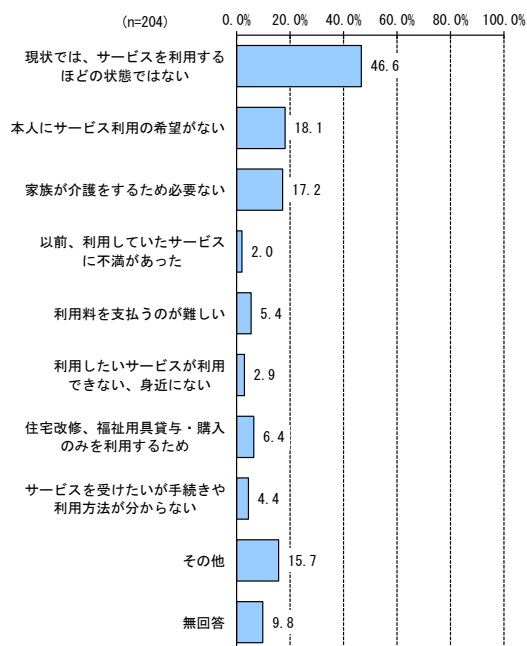
- 問6 〔介護保険サービスを利用していない方のみ〕 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（いくつでも）

【全体】

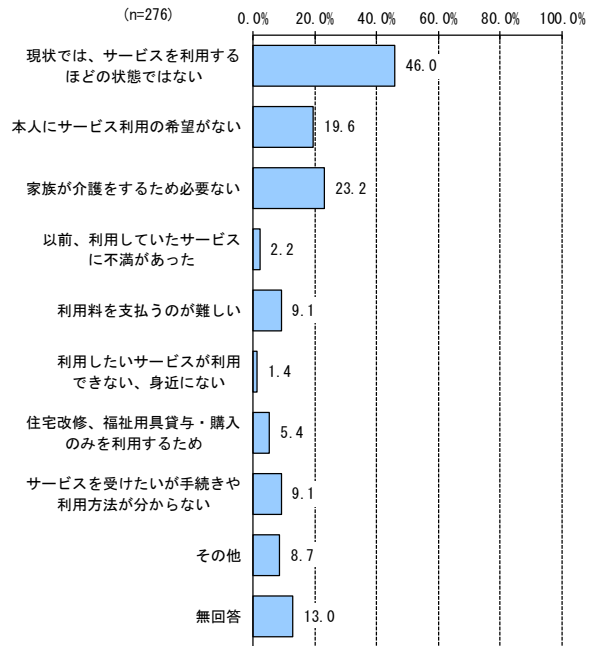
- 介護保険サービスを利用していない理由について、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 46.6%で最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 18.1%、「家族が介護をするため必要ない」が 17.2%となっています。

【介護保険サービスを利用していない理由 (MA)】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



(3) 施設等への入所・入居の検討状況

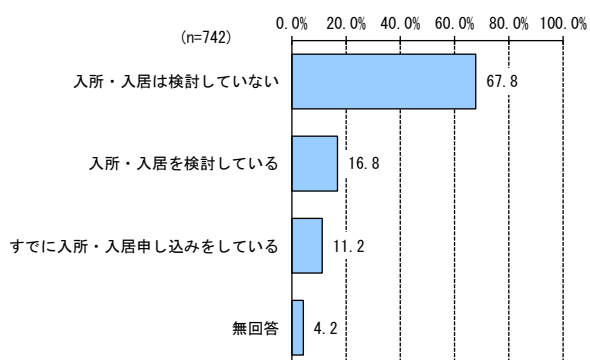
- 問3 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（1つだけ）

【全体】

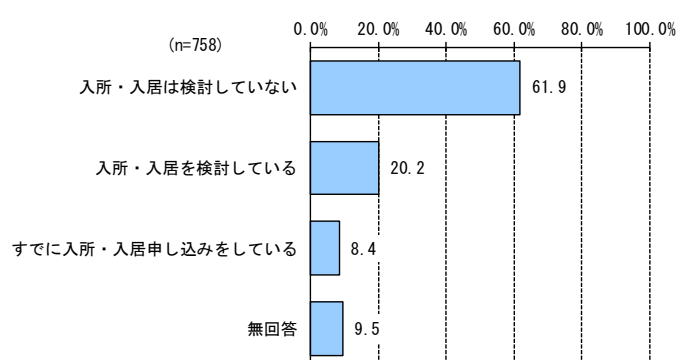
- 施設等への入所・入居の検討状況について、「入所・入居は検討していない」が67.8%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が16.8%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が11.2%となっています。
- 前回調査と比べると、「入所・入居は検討していない」が5.9ポイント多くなっています。

【施設等への入所・入居の検討状況】

〔今回調査（R8年度）〕



〔前回調査（R5年度）〕



(4) 医療的な支援・サービス

① 現在抱えている傷病

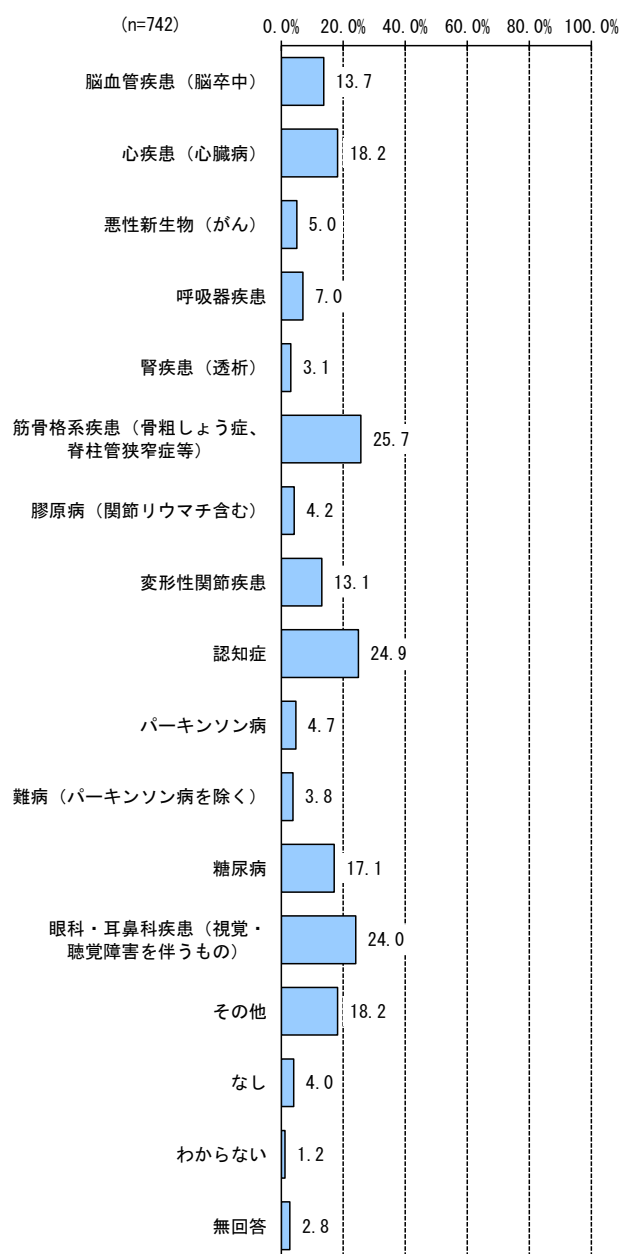
●問4 調査の対象者が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。(いくつでも)

【全体】

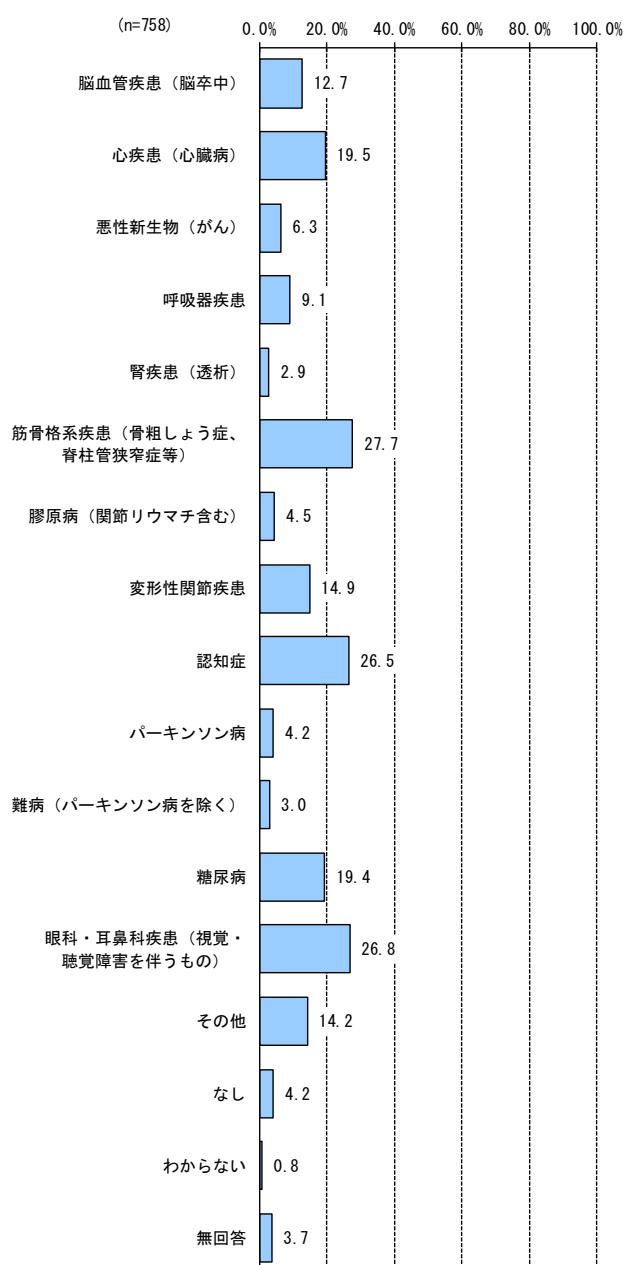
- 現在抱えている傷病について、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が25.7%で最も多く、次いで「認知症」が24.9%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が24.0%となっています。

【現在抱えている傷病(MA)】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]



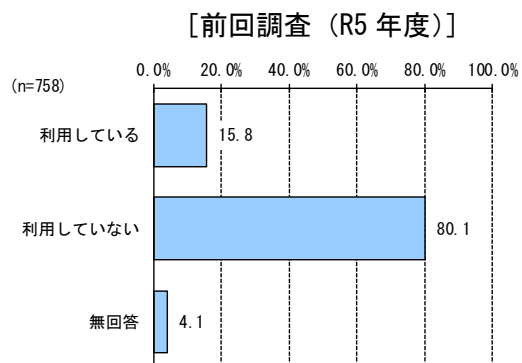
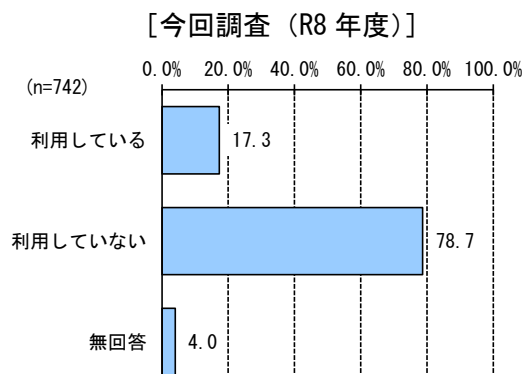
② 訪問診療の利用状況

●問9 調査の対象者は、現在、訪問診療を利用していますか。(1つだけ)

【全体】

○ 訪問診療の利用状況について、「利用している」が17.3%、「利用していない」が78.7%となっています。

【訪問診療の利用状況】



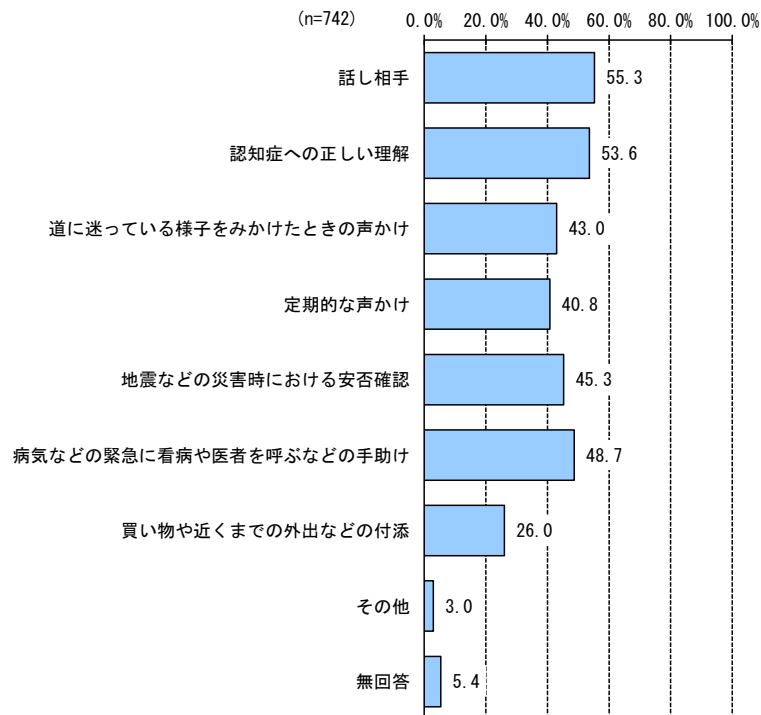
5. その他の項目について

- 問12 認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには、どのような地域住民の協力があると助かると思いますか。(いくつでも)

【全体】

- 認知症の人及びその家族にとってあればよいと思う地域の支援について、「話し相手」が55.3%で最も多く、次いで「認知症への正しい理解」が53.6%、「病気などの緊急に看病や医者と呼ぶなどの手助け」が48.7%となっています。

【認知症の人及びその家族にとってあればよいと思う地域の支援(3LA)】



- 自由意見 介護保険制度や保健福祉施策について、またはご自身のことでも自由にご記入ください。

主な意見	
介護保険制度全般	・介護保険制度はありがたい、助かっている ・介護保険料や利用料の負担が大きく、出費が厳しい ・軍事費等を見直し、社会保障費の充実と自己負担の軽減を望む ・制度が複雑で、利用できるサービス内容や範囲がわからない
介護認定・審査	・介護認定の結果が出るまで時間がかかり困る ・認定基準が不透明で、本人の状態や家族の負担が正しく反映されていない ・地域や同居家族の有無による判定のばらつきを公平にしてほしい
介護保険サービス・人材	・デイサービスや訪問リハビリ等を利用して非常に助かっている ・訪問看護やヘルパーの時間を長くし、ニーズに柔軟に対応してほしい ・人材不足解消のため、ヘルパーの給与や待遇を改善してほしい ・同居家族の就労状況などを考慮し、利用制限を柔軟にしてほしい
高齢福祉・生活支援	・車椅子でのバス乗降の容易化や、バス路線の拡充をしてほしい ・通院の付き添いや外出支援を制度内で利用できるようにしてほしい ・紙おむつ等の消耗品に対する経済的援助がほしい ・訪問診療を受けやすくし、経済的負担も軽くしてほしい
相談支援・窓口対応	・ケアマネージャーに助けられており、今後も手厚い支援を望む ・ケアマネージャーの熱意に不安を感じる時がある ・市や包括支援センターの窓口対応（たらい回し、記録不足）を改善してほしい ・難聴者や高齢者に配慮した窓口・電話対応（肉声、聞き取りやすい声）をしてほしい
介護者支援・家族の負担	・老老介護や仕事との両立が厳しく、身体的・経済的な不安が大きい ・ショートステイの部屋代等実費が高く利用しづらいため、負担を減らしてほしい ・介護度上昇に伴う出費増で、家族が働く時間を増やさざるを得ず悩んでいる
施設・住まい	・将来、自分の年金の範囲内で施設に入所できるのか不安 ・介護施設の人手不足について心配している ・現在施設に入居しているが、保険が効いて費用が安い所へ移りたい
その他	・アンケートの質問が多く、答えるのが負担である ・近隣住民には事情を知られず、過度に関わられずに生活したい ・運転免許返納後の生活の質の低下が不安である ・特になし、わからない

6. 在宅生活継続に向けた5つの検討項目における集計結果

本章では、国が示す在宅介護実態調査を活用した5つの検討項目についての集計を掲載しています。
5つの検討項目と集計・分析のねらいは以下の通りとなっています。

視点	検討項目	集計・分析のねらい
要介護者の在宅生活の継続	(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	主に「施設の入所・入居の検討状況」「介護者が不安に感じる介護」「サービス利用状況」を指標とし、在宅生活の継続が困難になり得る状況と、利用によって介護者負担が軽減される可能性のあるサービスを把握することで、在宅限界点の向上のため（在宅介護をより長く継続するため）の支援・サービスの提供体制を検討するための資料とする。
介護者の就労継続	(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの検討	主に「主な介護者の勤務形態」「今後の仕事と介護の両立見込み」を指標とし、就労の継続が困難になり得る状況と、就労の継続に有効と思われる支援を把握することで、仕事と介護の両立に向けた支援・サービスを検討するための資料とする。
支援・サービス提供体制の検討	(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	主に「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況」「在宅生活の継続に必要な支援・サービス」を指標とし、保険外の支援・サービスの現在の需要と供給のバランスを把握することで、今後の地域資源整備を検討するための資料とする。
	(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	主に「世帯類型」「サービス利用状況」「施設の入所・入居の検討状況」を指標とし、世帯類型ごとの特徴を把握することで、将来の世帯類型の変化に応じて支援・サービスの提供体制を検討するための資料とする。
	(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	主に「医療面での対応を行っている介護者」「訪問診療の利用状況」を指標とし、医療ニーズの高い在宅療養者と、訪問診療を利用する人の特徴を把握することで、医療ニーズの高い在宅療養者への支援・サービスの提供体制を検討するための資料とする。

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. 認定データと突合ができない回答及び無回答を除いた集計となっています。
2. 介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」「通所系」「短期系」の3つに分類して集計しています。それぞれの用語の定義は以下の通りです。いずれも介護予防を含みます。
 - ・未利用：住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用
 - ・訪問系のみ：「訪問系（訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護）」、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のいずれかのみを利用
 - ・訪問系を含む組み合わせ：上記「訪問系」、下記「通所系」、小規模多機能型居宅介護を組み合わせ利用
 - ・通所系・短期系のみ：「通所系（通所介護、通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護）」、「短期系（短期入所生活介護、短期入所療養介護）」のいずれかのみを利用

3. 一部の分析において使用している「認知症自立度」は、認定調査と主治医意見書に基づき、介護認定審査会において最終的に決定された認知症高齢者の日常生活自立度を指しています。なお、日常生活自立度の各区分の判断基準やみられる症状・行動の例は以下の通りです。（認定調査員テキスト 2009 改訂版より）

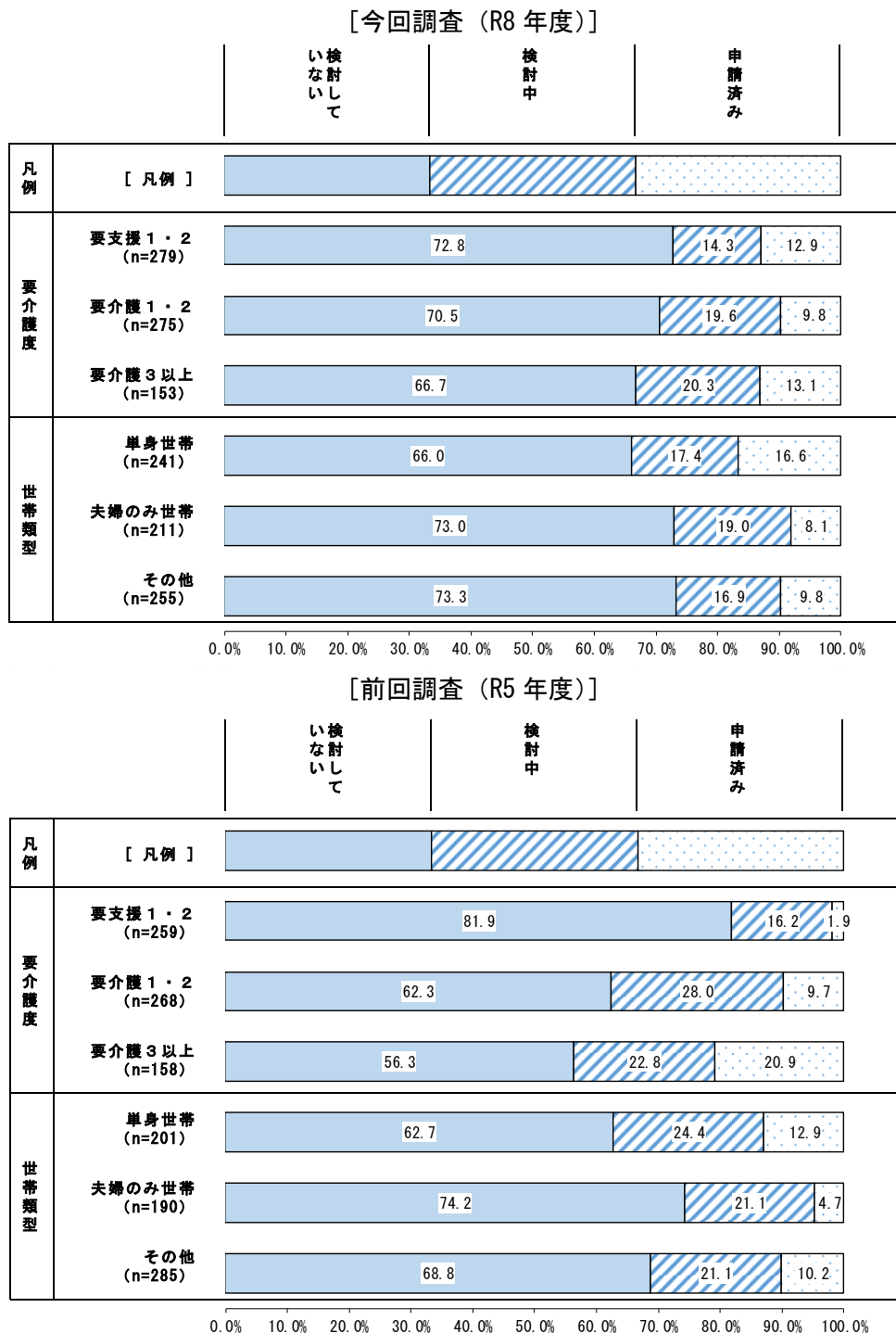
ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記 II の状態がみられる。	たびたび道に迷う、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記 II の状態がみられる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがみられ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記 III の状態がみられる。	着替え、食事、排尿が上手にできない、時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記 III の状態がみられる。	ランク III a に同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁にみられ、介護を必要とする。	ランク III に同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患がみられ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

① 施設等への入所・入居を検討する状態

【要介護度】	
○	要介護3以上では、「検討中」が20.3%、「申請済み」が13.1%となっています。前回調査と比べると、要介護1・2で「検討していない」が少なくなっています。一方で、「申請済み」は多くなっています。
【世帯類型】	
○	単身世帯では、「検討中」が17.4%、「申請済み」が16.6%と高くなっています。前回調査と比べると、単身世帯で「検討中」が7.0ポイント少なくなっています。

【施設等への入所・入居の検討状況】



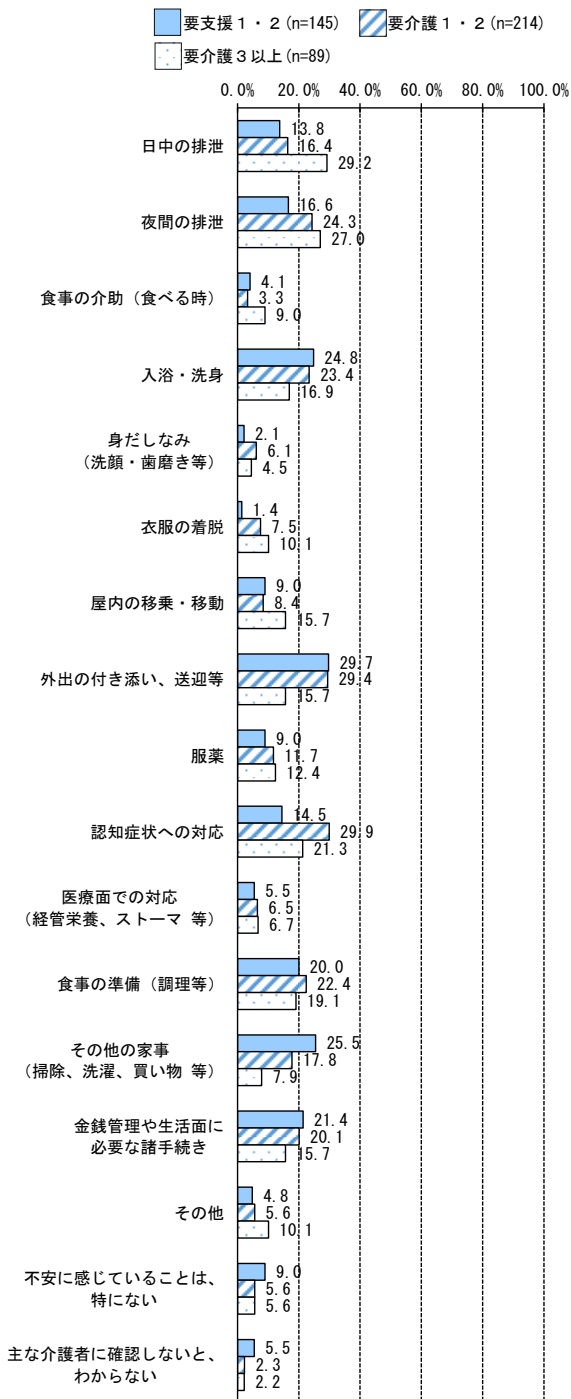
② 在宅限界点となり得る介護の内容

【要介護度】

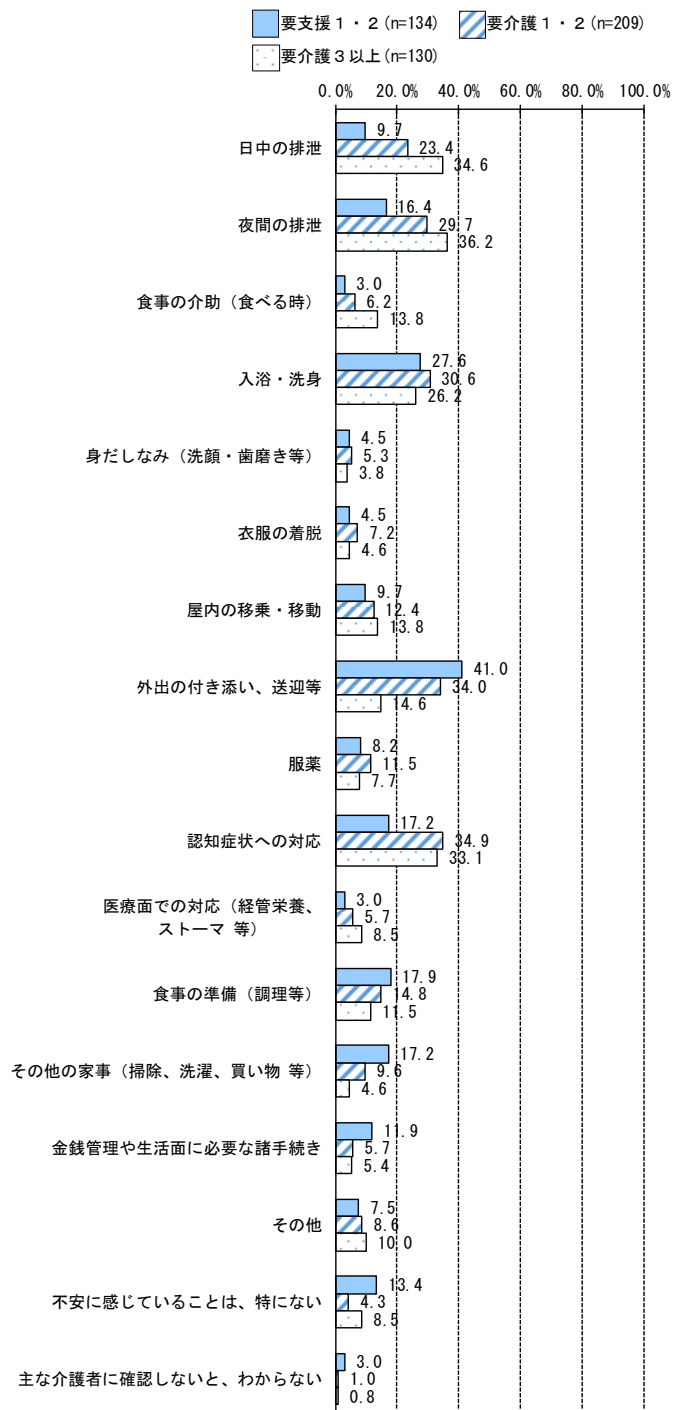
- 要支援１・２では、「外出の付き添い、送迎等」が29.7%で最も多くなっています。
- 要介護１・２では、「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」が約３割と多くなっています。
- 要介護３以上では、「日中の排泄」「夜間の排泄」が約３割と多くなっています。
- 前回調査と比べると、要支援１・２で「外出の付き添い、送迎等」が11.3ポイント少なくなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)】

〔今回調査（R8年度）〕



〔前回調査（R5年度）〕

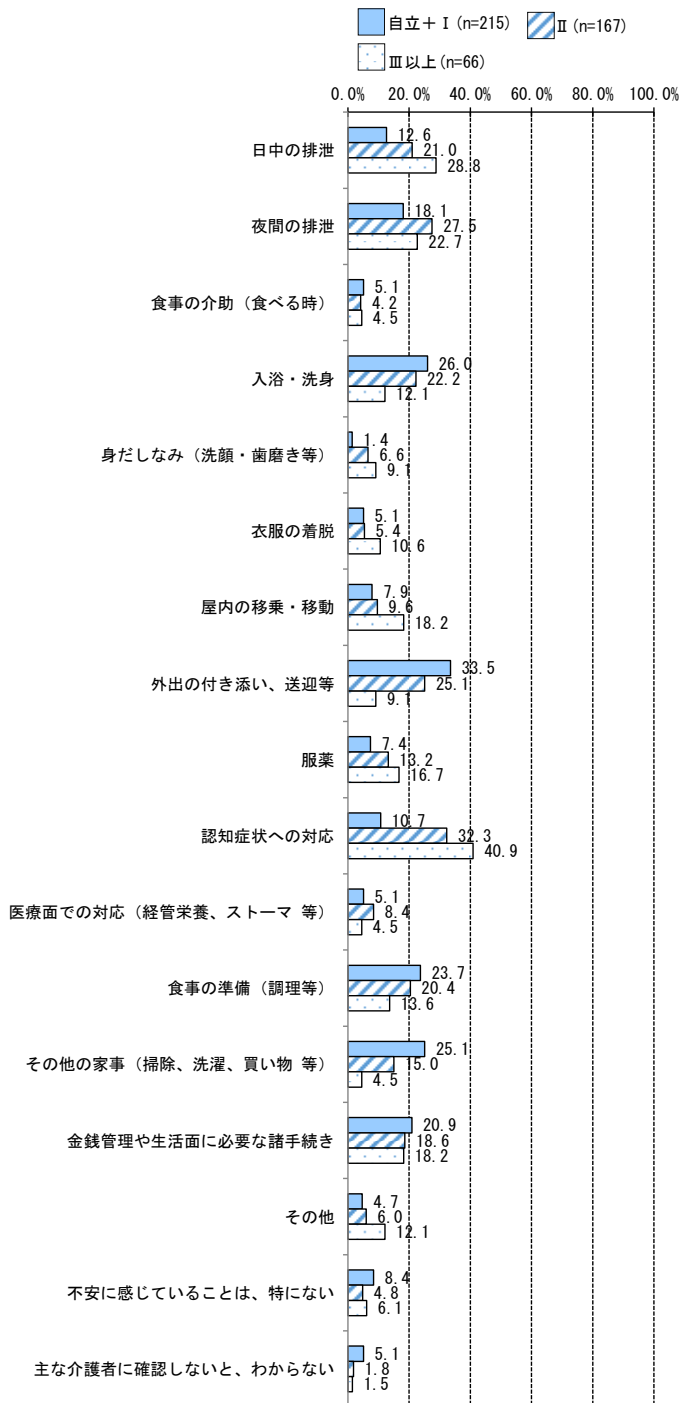


【認知症自立度】

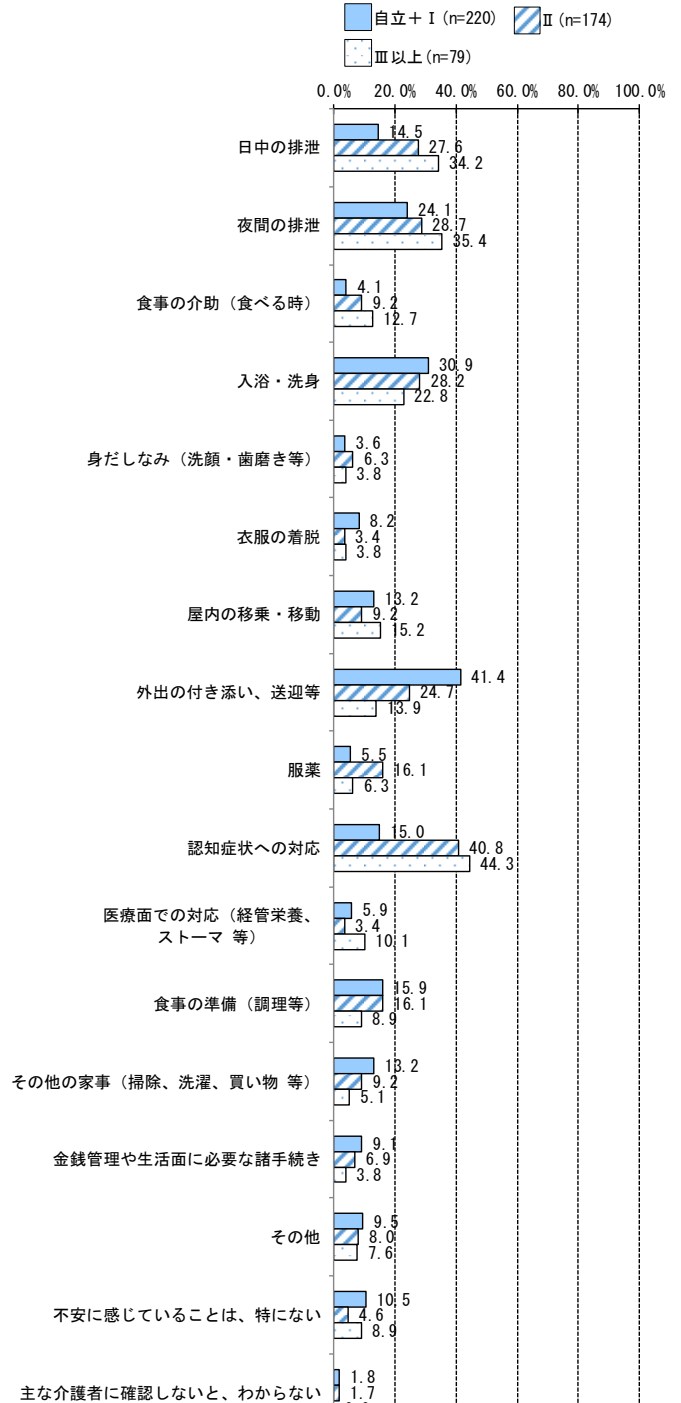
○ 認知症自立度Ⅲ以上で「認知症状への対応」が4割以上と多くなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)】

〔今回調査 (R8 年度)〕



〔前回調査 (R5 年度)〕



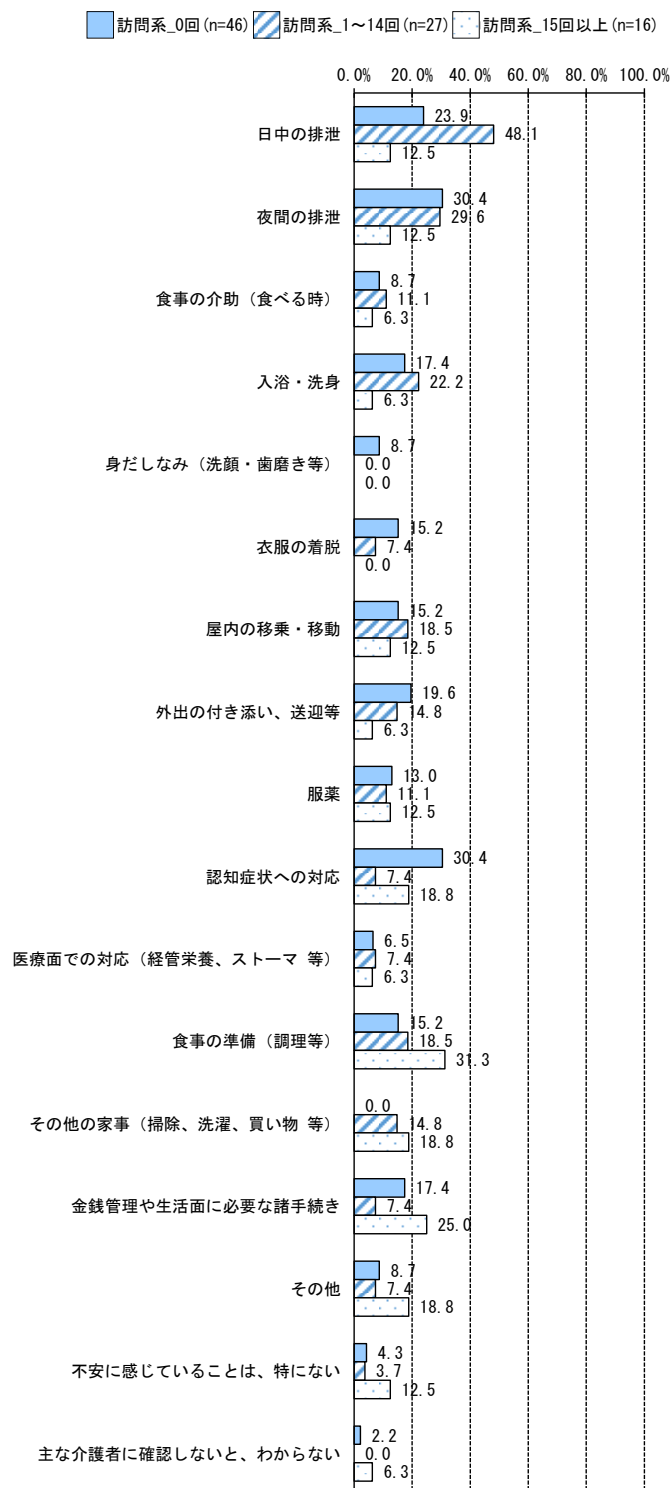
③ 在宅生活の継続に寄与する可能性のあるサービス

【訪問系サービスの利用回数（要介護3以上）】

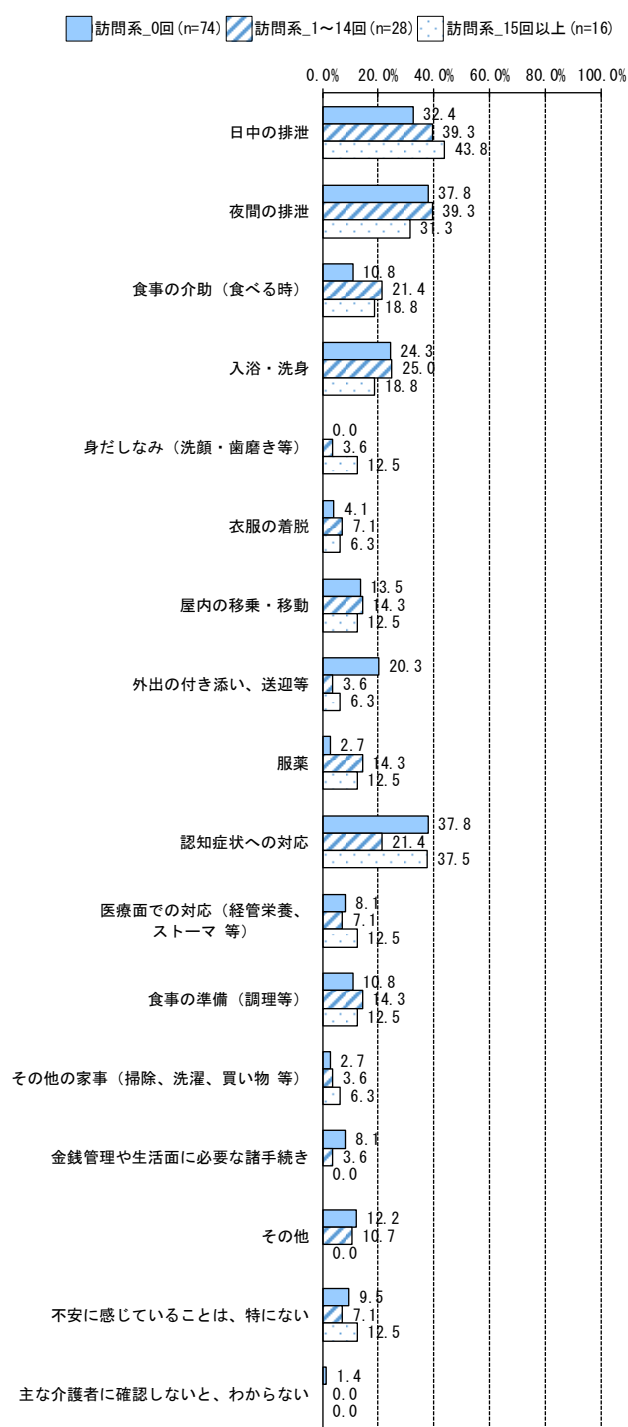
- 要介護3以上で訪問系サービスを利用している人では利用していない人に比べて、「外出の付き添い、送迎等」「夜間の排泄」などに不安を感じる介護者の割合が少なくなっています。
- 訪問系サービスを月15回以上利用している人では14回以下の人に比べて、「日中の排泄」「夜間の排泄」「入浴・洗身」「衣服の着脱」などが少なくなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)（要介護3以上）】

[今回調査（R8年度）]



[前回調査（R5年度）]



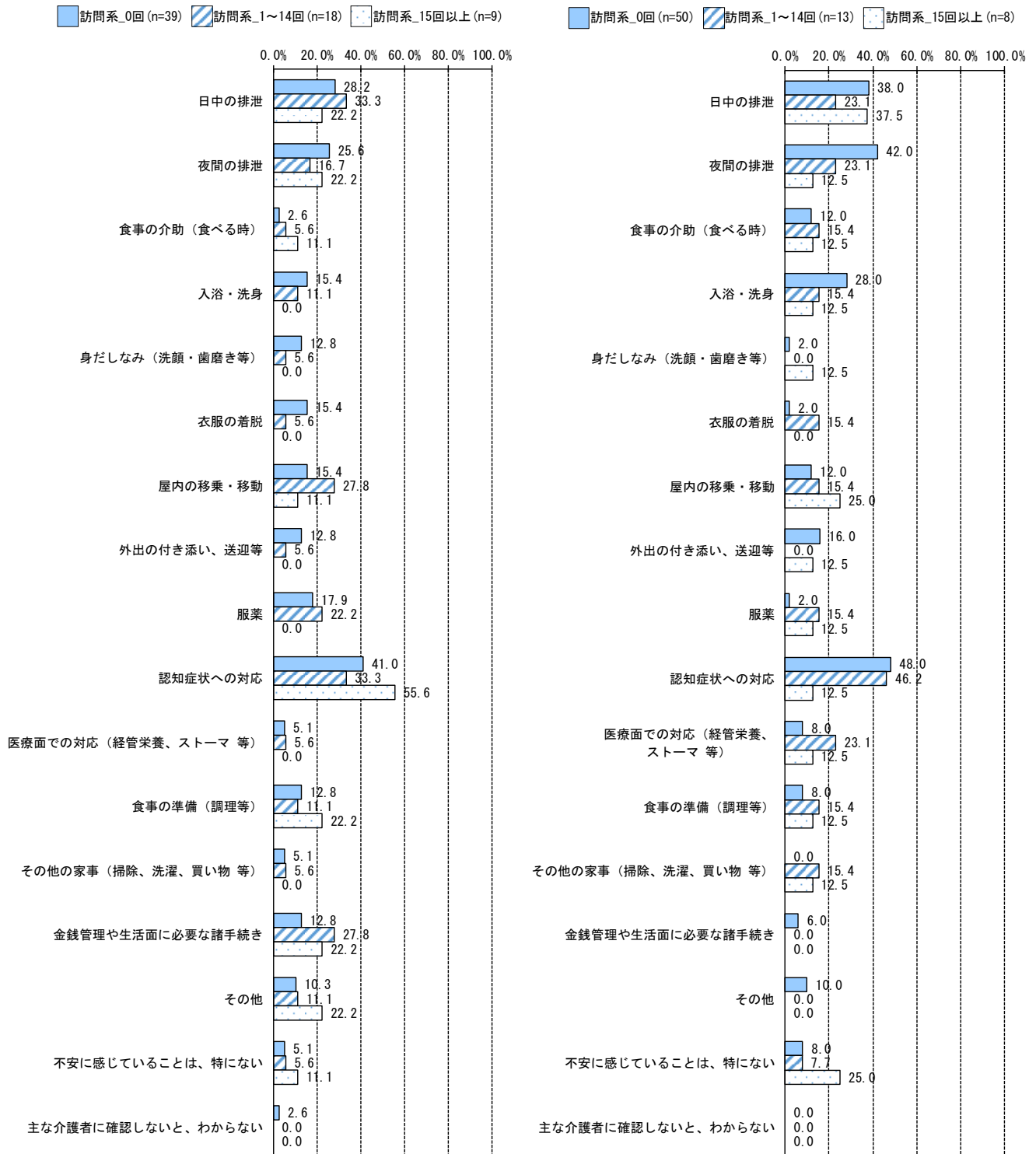
【訪問系サービスの利用回数（認知症自立度Ⅲ以上）】

- 認知症自立度Ⅲ以上で訪問系サービスを利用している人では利用していない人に比べて、「入浴・洗身」「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」「外出の付き添い、送迎等」などで不安を感じる介護者の割合が少なくなっています。
- 訪問系サービスを月 15 回以上利用している人では 14 回以下の人に比べて、「入浴・洗身」「服薬」などが少なくなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)（認知症自立度Ⅲ以上）】

[今回調査（R8 年度）]

[前回調査（R5 年度）]



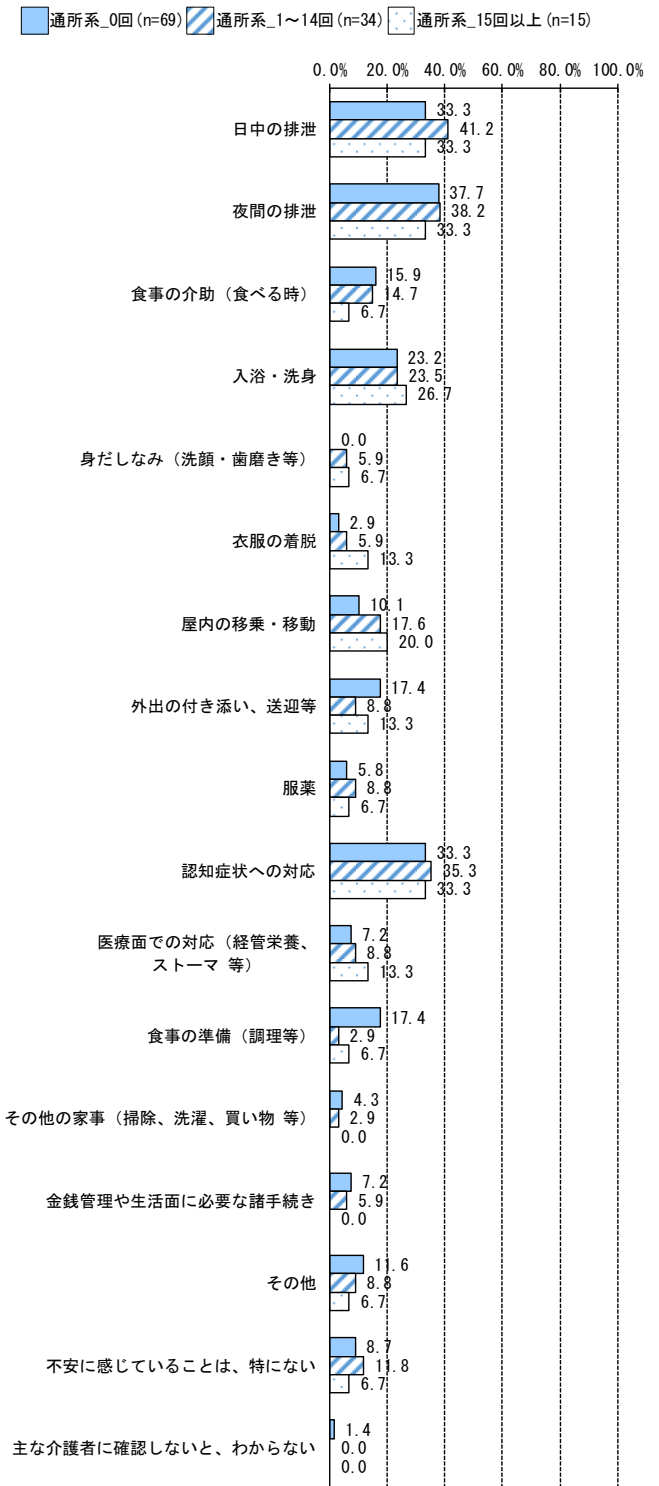
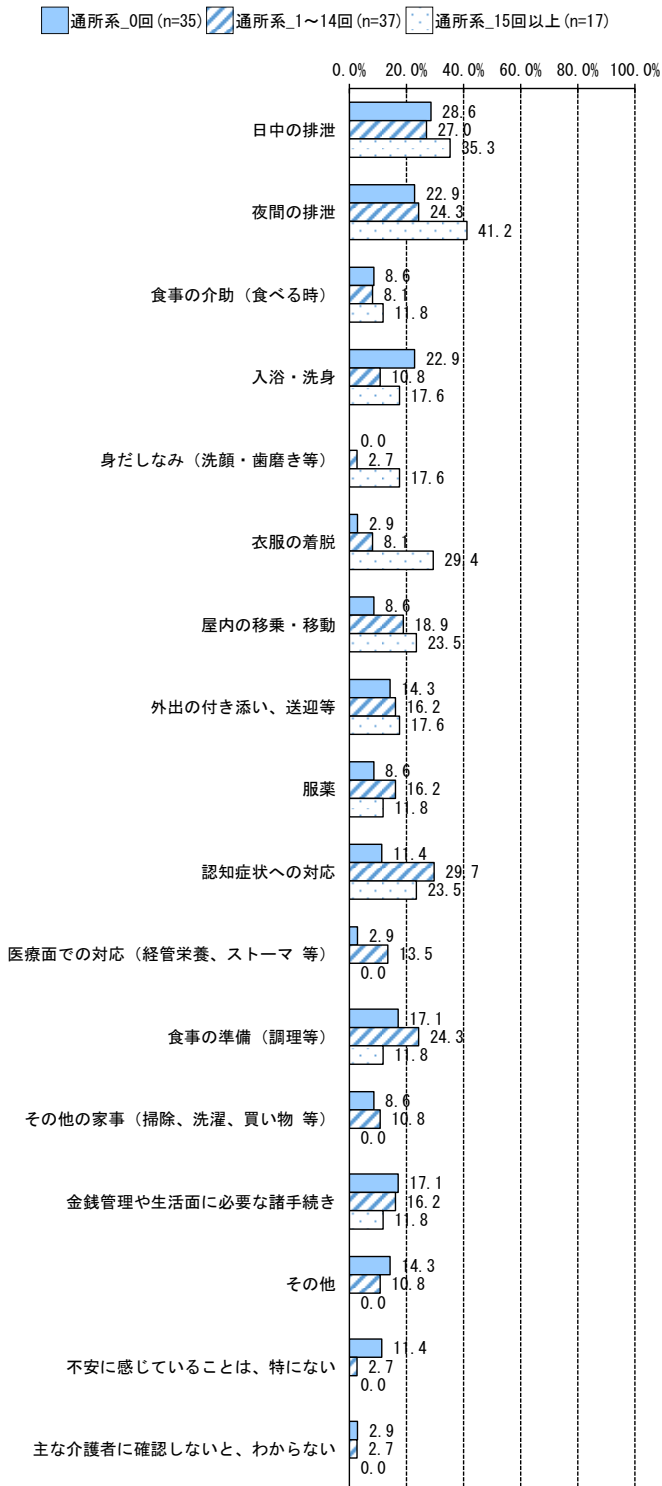
【通所系サービスの利用回数（要介護3以上）】

- 要介護3以上で通所系サービスを利用している人では利用していない人に比べて、「入浴・洗身」を不安に感じる介護者の割合が少なくなっています。
- 通所系サービスを月15回以上利用している人では14回以下の人に比べて「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が少なくなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)（要介護3以上）】

[今回調査（R8年度）]

[前回調査（R5年度）]



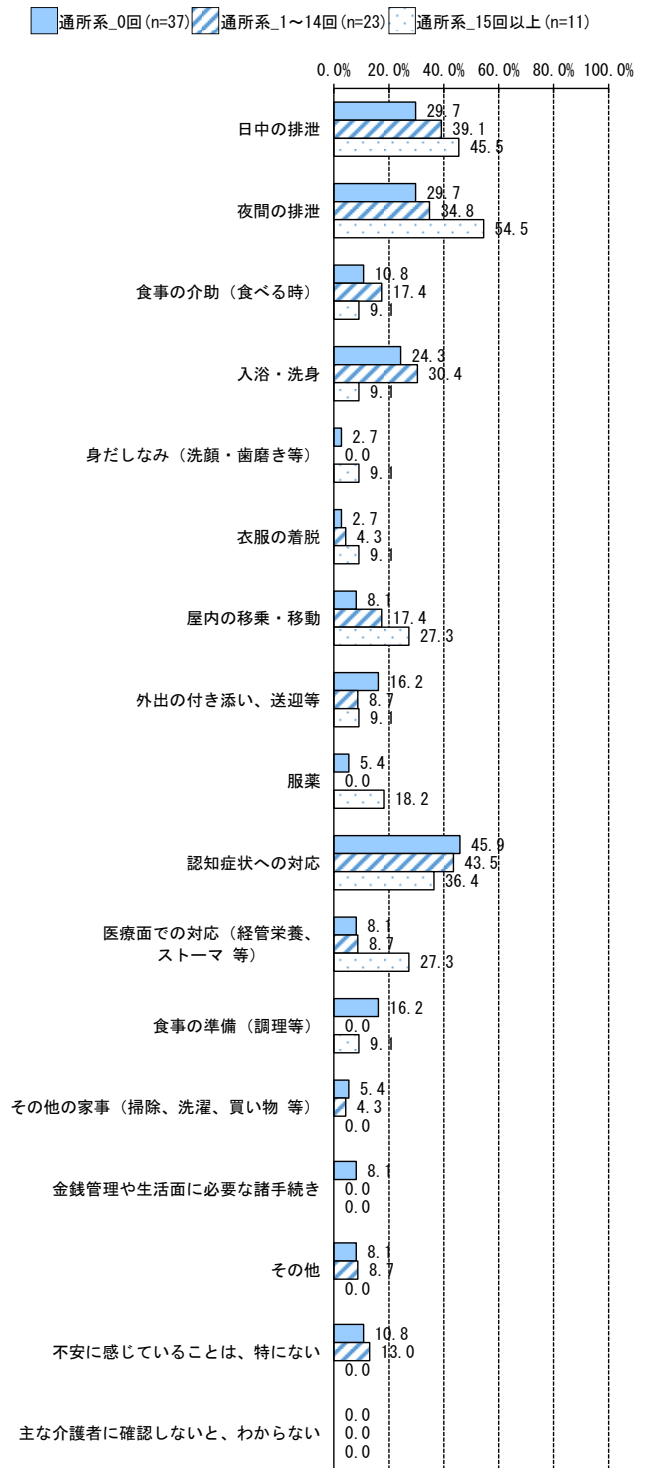
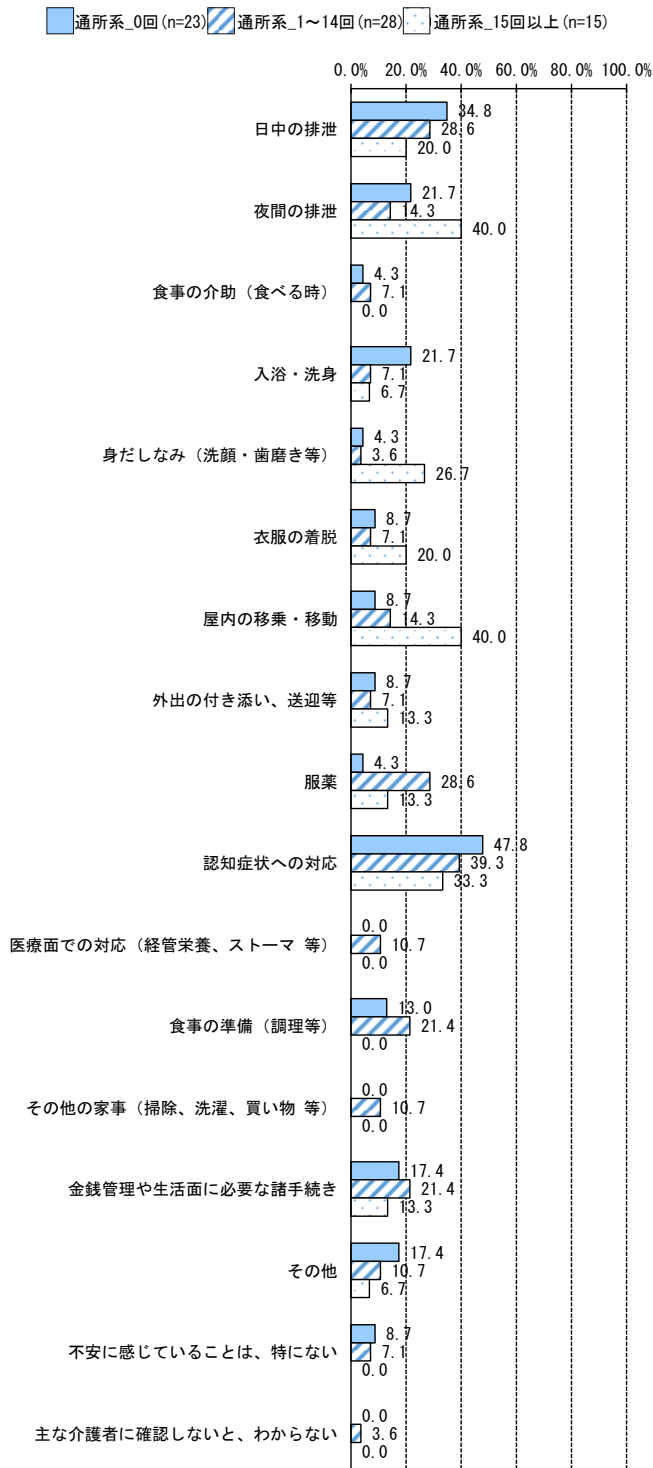
【通所系サービスの利用回数（認知症自立度Ⅲ以上）】

- 認知症自立度Ⅲ以上で通所系サービスを利用している人では利用していない人に比べて、「日中の排泄」「入浴・洗身」などを不安に感じる介護者の割合が少なくなっています。
- 通所系サービスを月 15 回以上利用している人では 14 回以下の人に比べて、「食事の準備（調理等）」が少なくなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)（認知症自立度Ⅲ以上）】

〔今回調査（R8 年度）〕

〔前回調査（R5 年度）〕



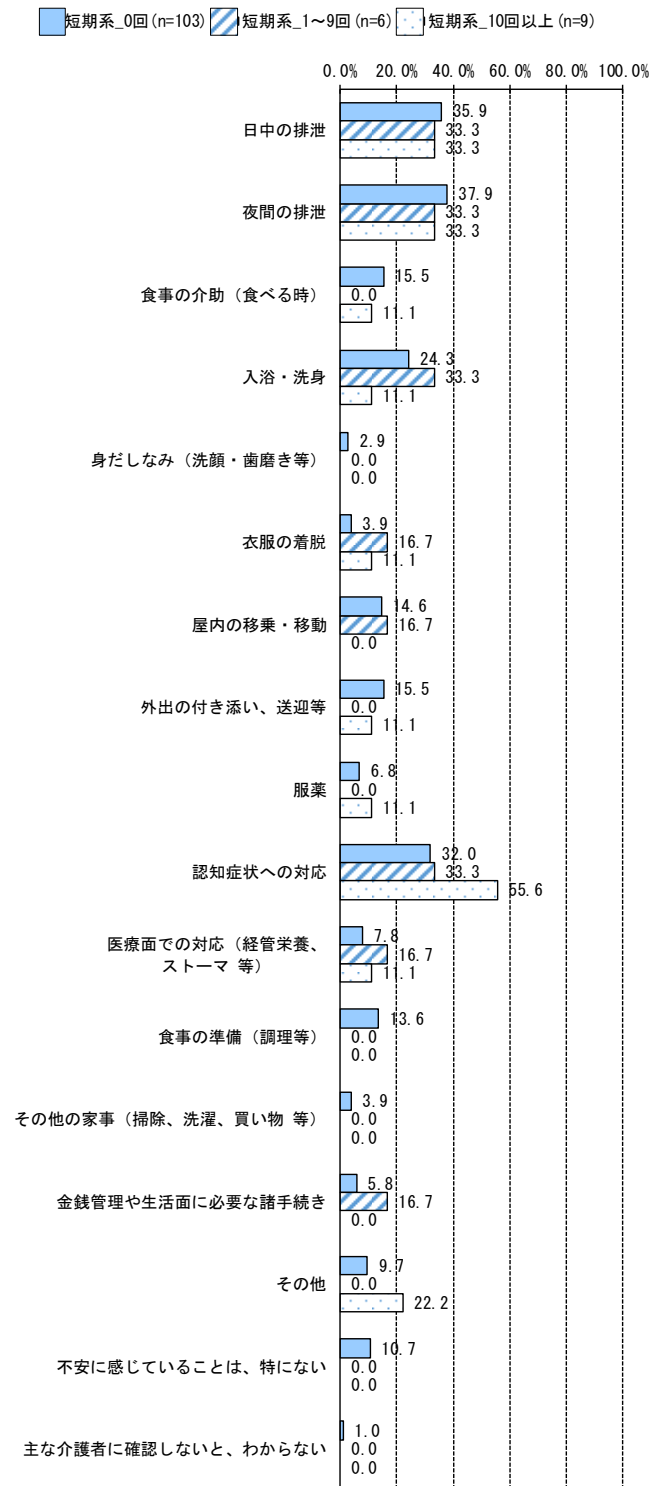
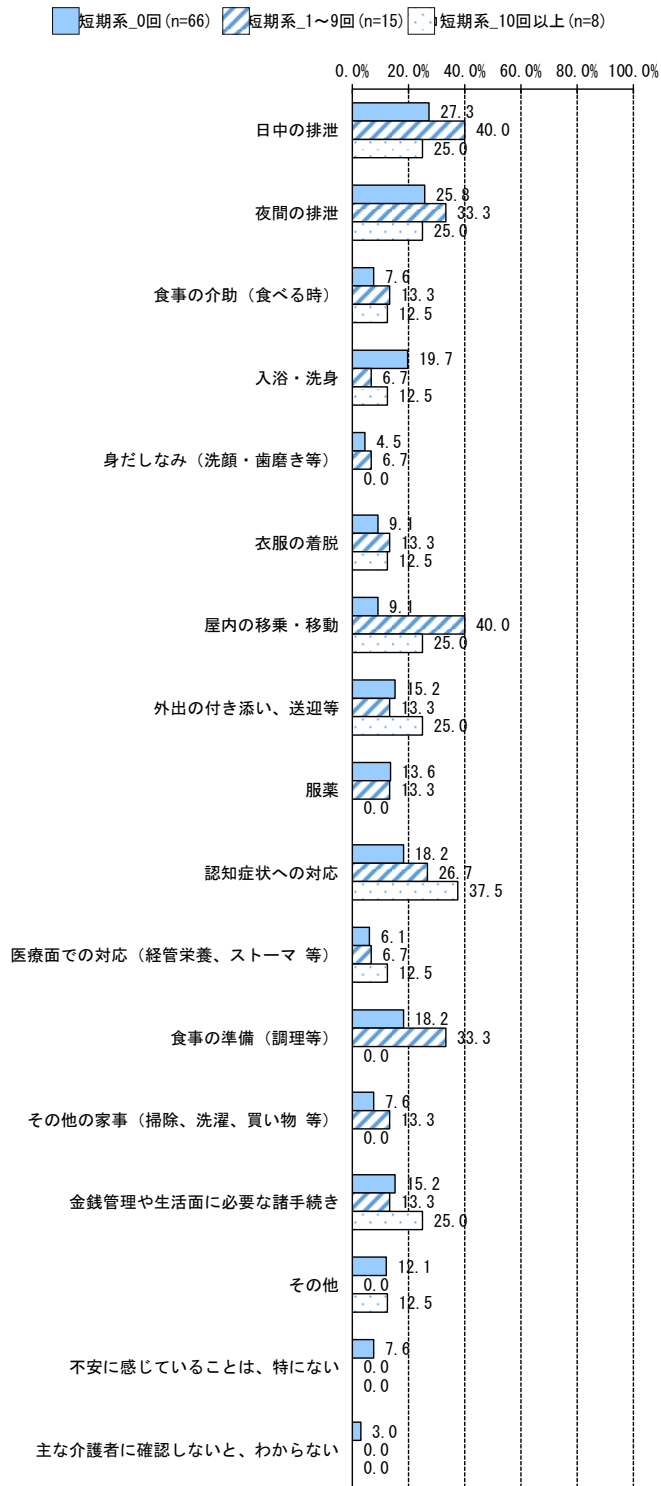
【短期系サービスの利用回数（要介護3以上）】

- 要介護3以上で短期系サービスを利用している人では利用していない人に比べて、「服薬」を不安に感じる介護者の割合が少なくなっています。
- 短期系サービスを月10回以上利用している人では9回以下の人に比べて「食事の準備（調理等）」が少なくなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)（要介護3以上）】

〔今回調査（R8年度）〕

〔前回調査（R5年度）〕

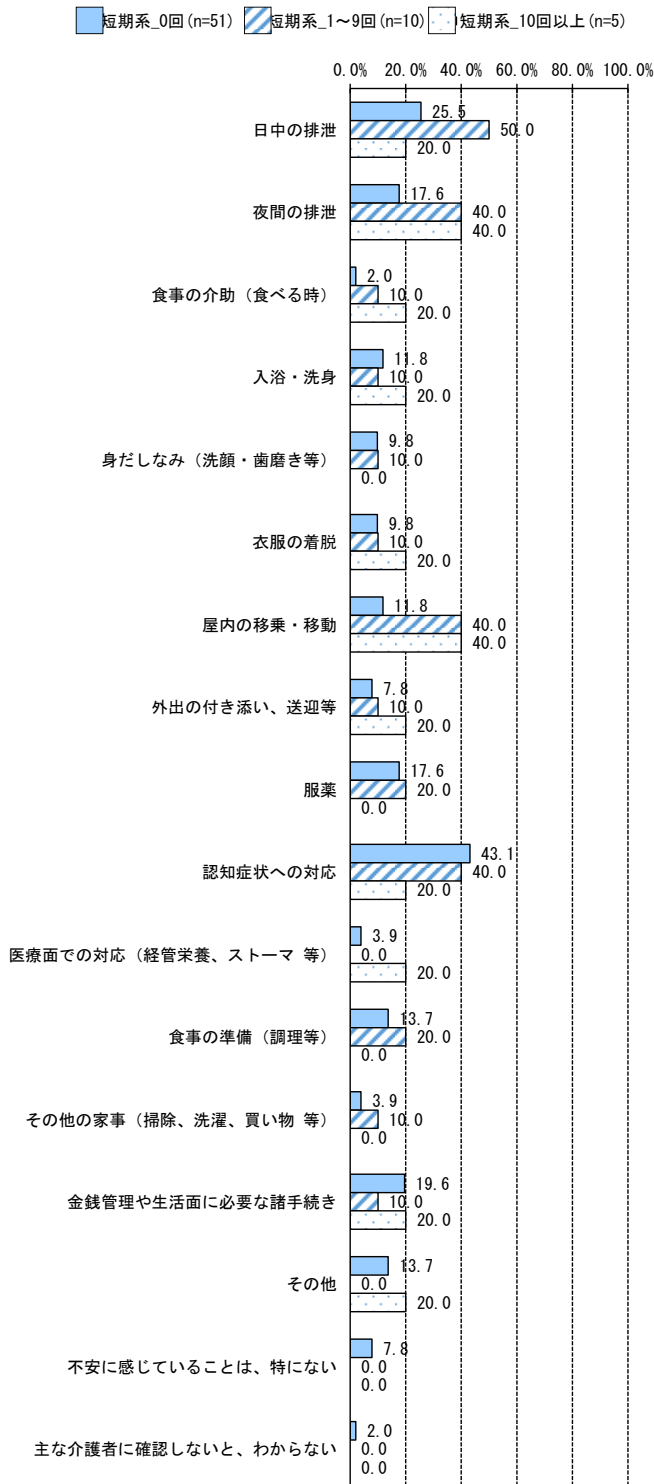


【短期系サービスの利用回数（認知症自立度Ⅲ以上）】

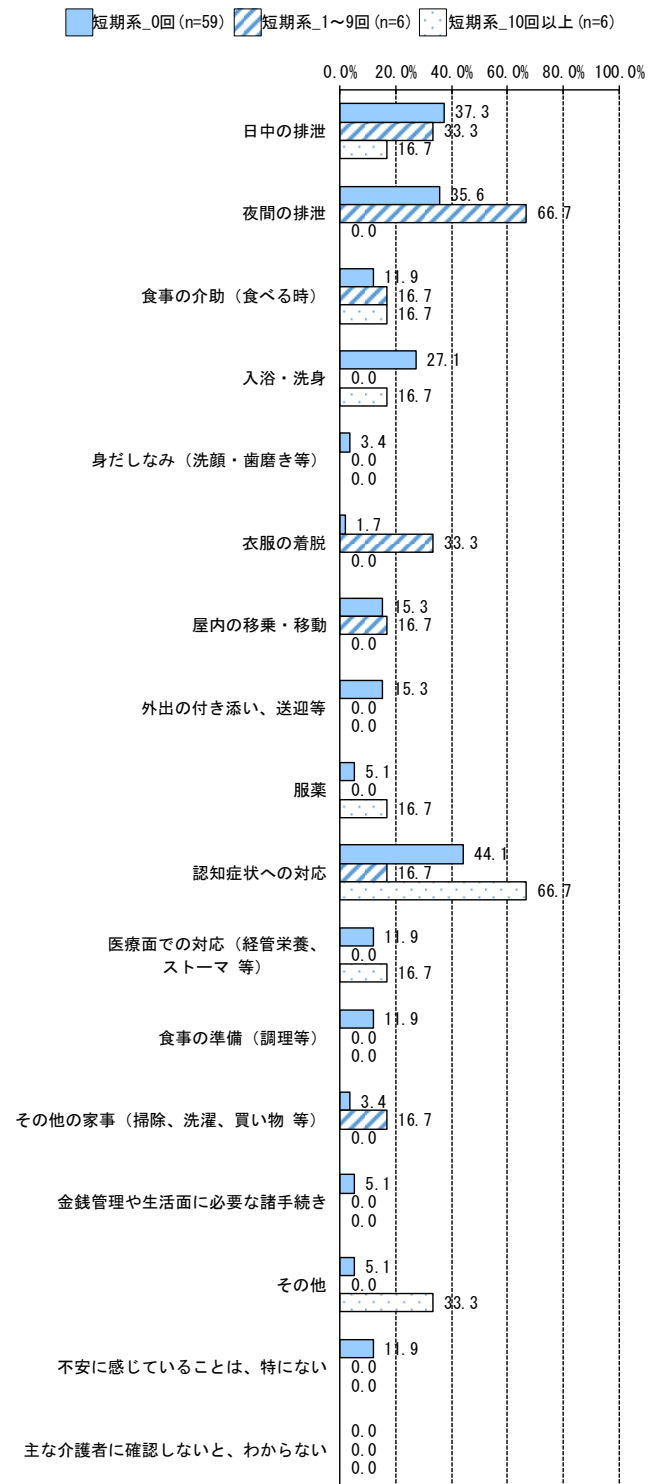
- 認知症自立度Ⅲ以上で短期系サービスを利用している人では利用していない人に比べて、「認知症状への対応」を不安に感じる介護者の割合が少なくなっています。
- 短期系サービスを月10回以上利用している人では9回以下の人に比べて、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」「服薬」「食事の準備（調理等）」が少なくなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)（認知症自立度Ⅲ以上）】

〔今回調査（R8年度）〕



〔前回調査（R5年度）〕



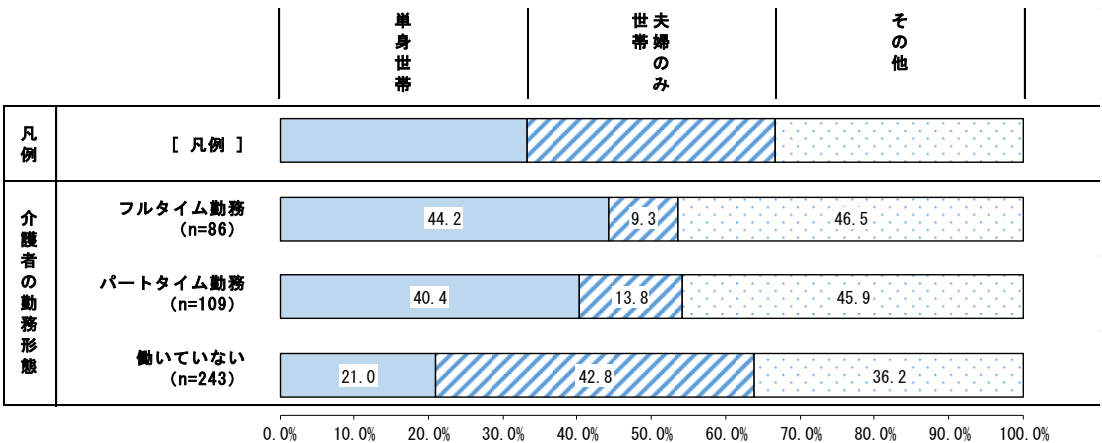
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの検討

① 就労継続が困難になり得る状況

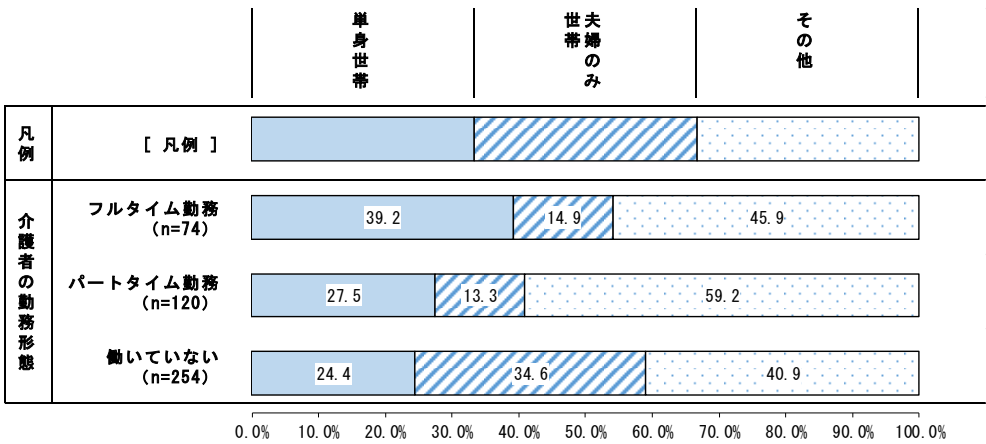
【調査の対象者の世帯類型】	
○	主な介護者がフルタイムで働いている人のうち要介護者が「単身世帯」である人は 44.2%、パートタイムで働いている人のうち要介護者が「単身世帯」である人は 40.4%となっています。
○	前回調査と比べると、パートタイムで働いている人のうち要介護者が「単身世帯」である人が多く、一方で働いていない人では少なくなっています。

【調査の対象者の世帯類型】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]

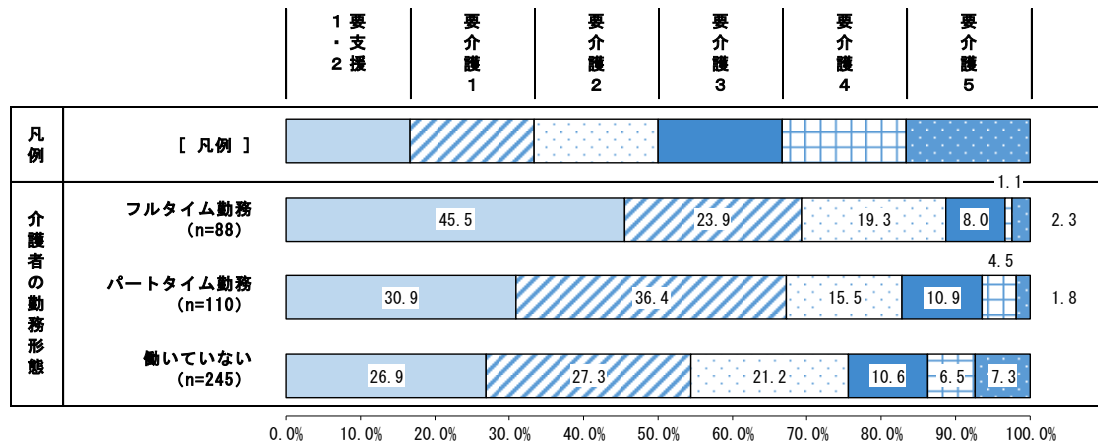


【調査の対象者の要介護度】

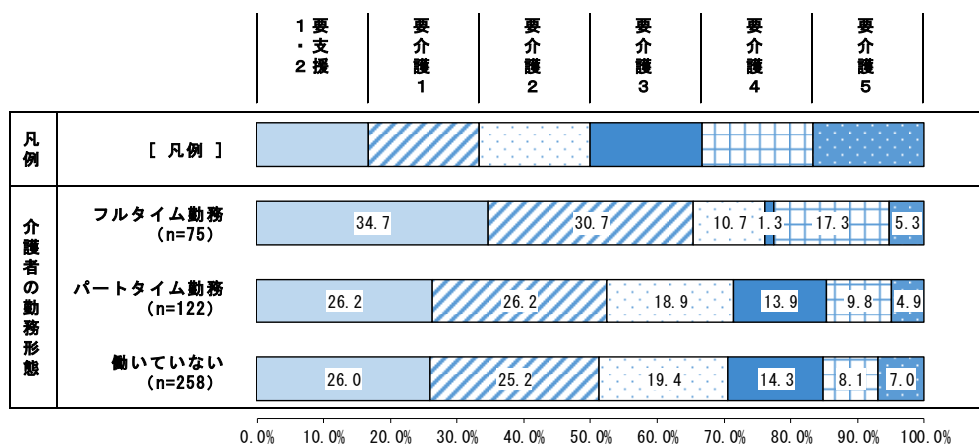
- 主な介護者がパートタイムで働いている人、働いていない人ではフルタイムで働いている人に比べて要介護者が「要介護1」以上である人が多くなっています。
- 前回調査と比べると、いずれの区分でも要介護者が「要支援1・2」である人が多くなっています。

【調査の対象者の要介護度】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕

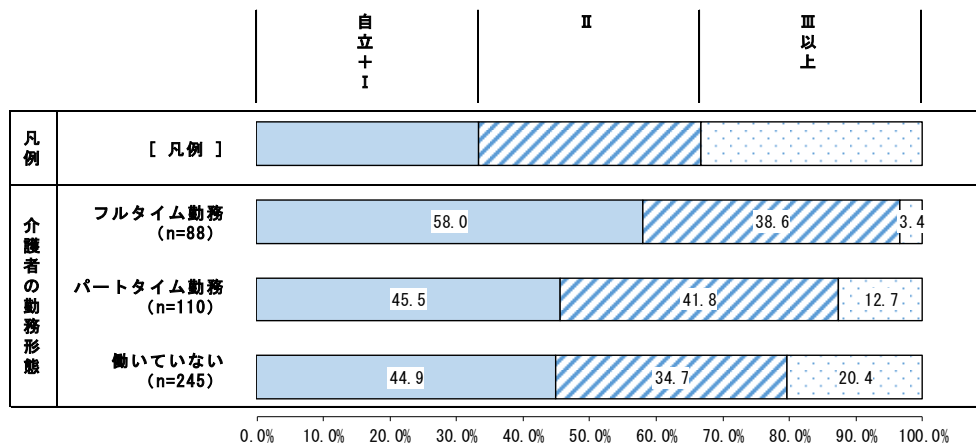


【調査の対象者の認知症自立度】

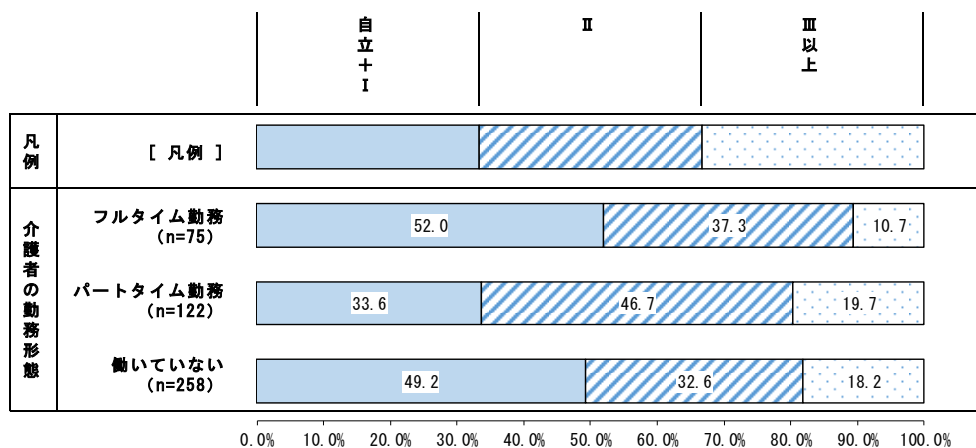
- 主な介護者がフルタイムで働いている人では、要介護者の認知症自立度「Ⅲ以上」が3.4%であるのに対し、働いていない人では約2割となっています。
- 前回調査と比べると、パートタイムで働いている人で「Ⅱ」以上が少なくなっています。

【調査の対象者の認知症自立度】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]

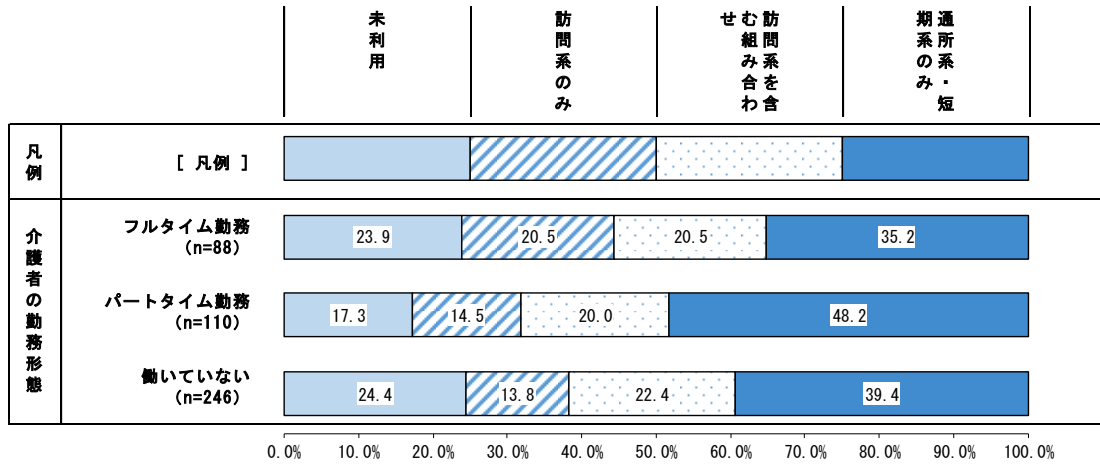


【サービス利用の組み合わせ】

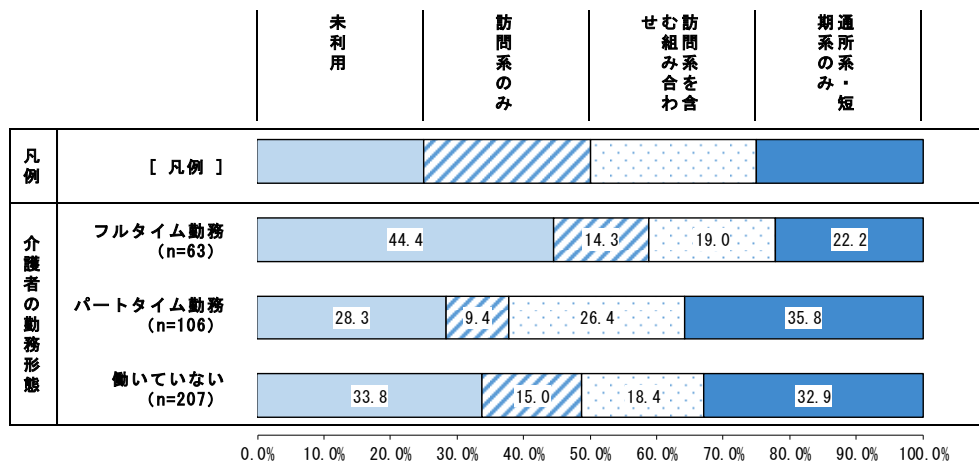
- 主な介護者がパートタイムで働いている人では「通所系・短期系のみ」が約5割と多くなっています。
- 前回調査と比べると、いずれの区分でも「未利用」が少なくなっています。

【サービス利用の組み合わせ】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]

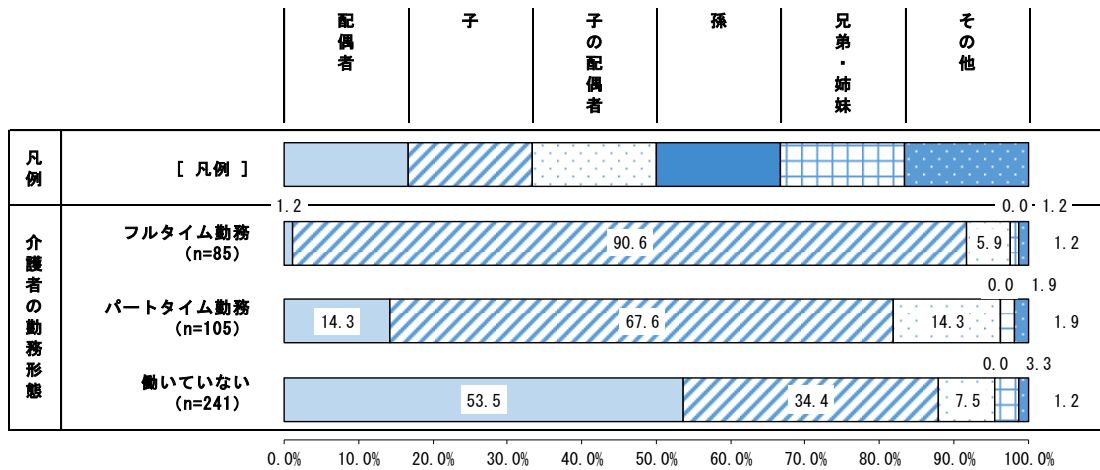


【主な介護者】

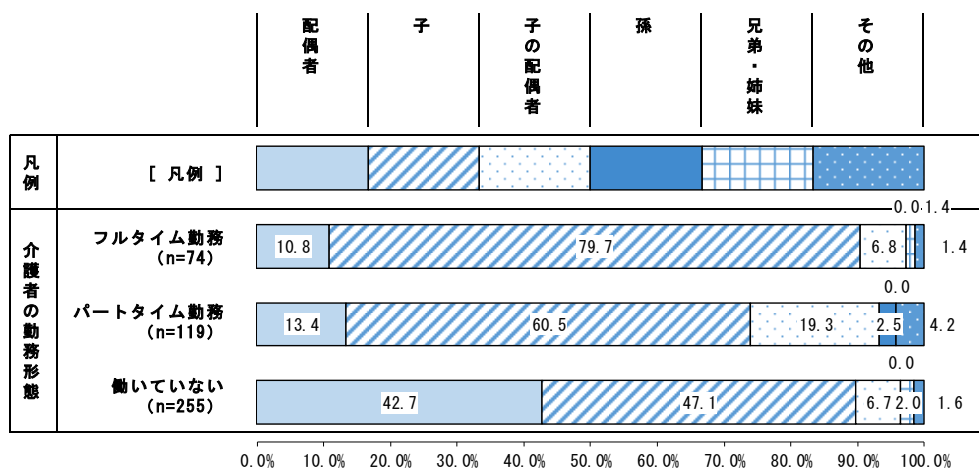
- 働いていない人では「配偶者」が53.5%と働いている人に比べて多くなっています。
- 前回調査と比べると、フルタイムで働いている人では「配偶者」が少なく「子」が多くなっています。

【主な介護者】

【今回調査（R8 年度）】



【前回調査（R5 年度）】

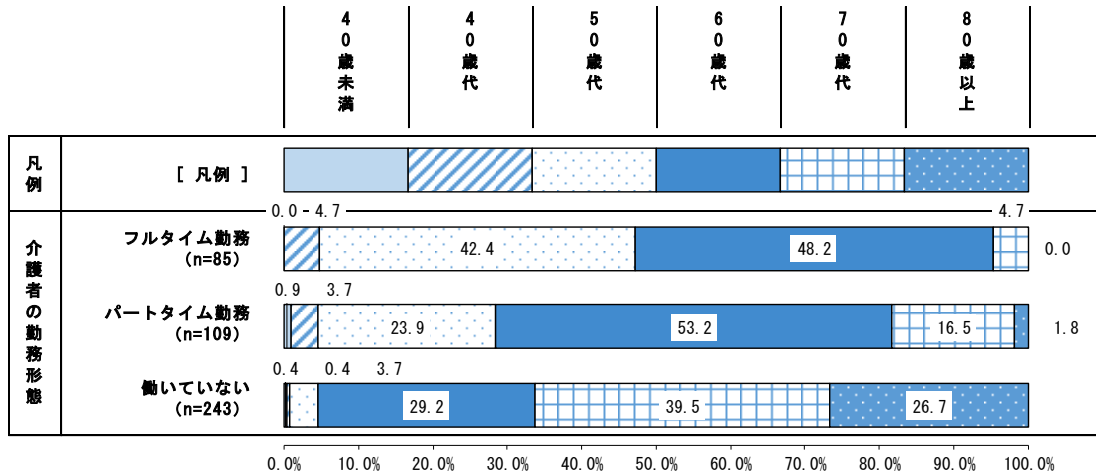


【主な介護者の年齢】

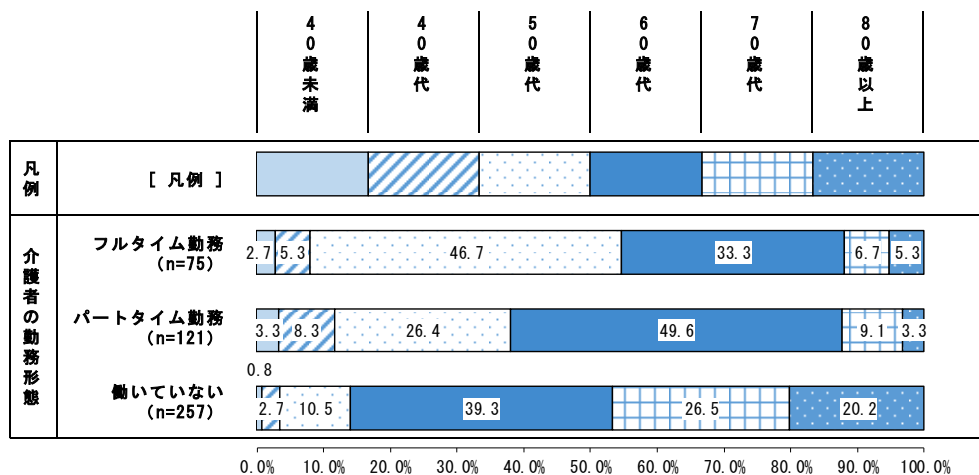
- 「60 歳代」以上は、フルタイムで働いている人では 52.9%、パートタイムで働いている人では 71.5%、働いていない人では 95.4%となっています。
- 前回調査と比べると、いずれの区分でも「60 歳代」以上が多くなっています。

【主な介護者の年齢】

【今回調査（R8 年度）】



【前回調査（R5 年度）】

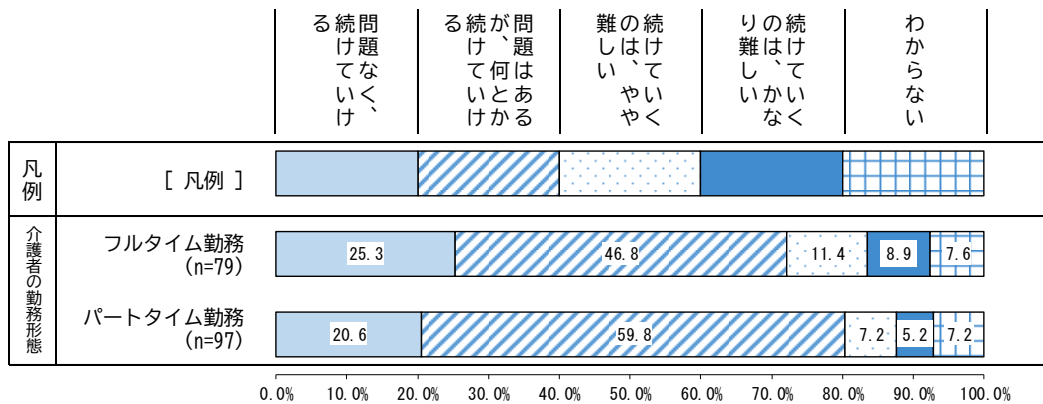


【介護者の勤務形態】

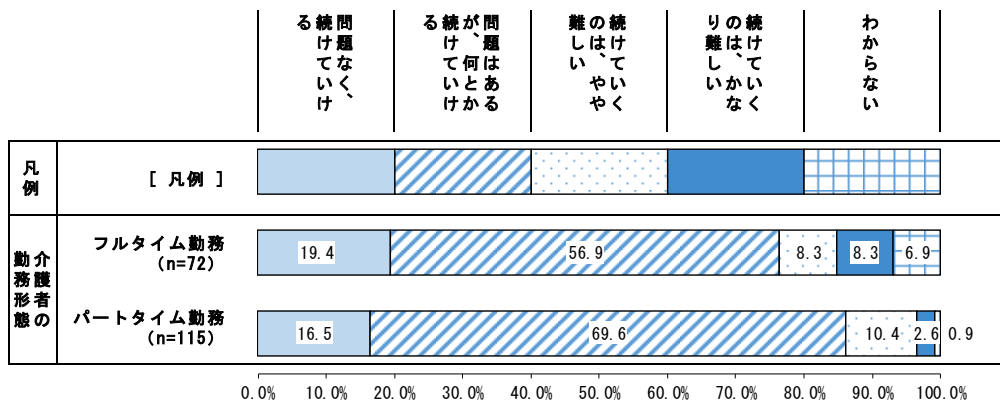
- フルタイム勤務者ではパートタイム勤務者に比べて「問題はあるが、何とか続けていく」が少なく、「続けていくのは、かなり難しい」が多くなっています。

【今後の仕事と介護の両立】

【今回調査（R8 年度）】



【前回調査（R5 年度）】

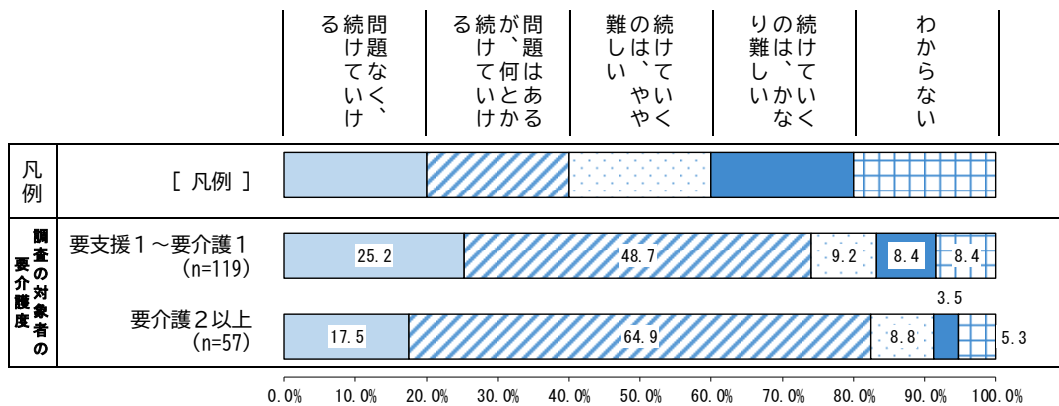


【調査の対象者の要介護度】

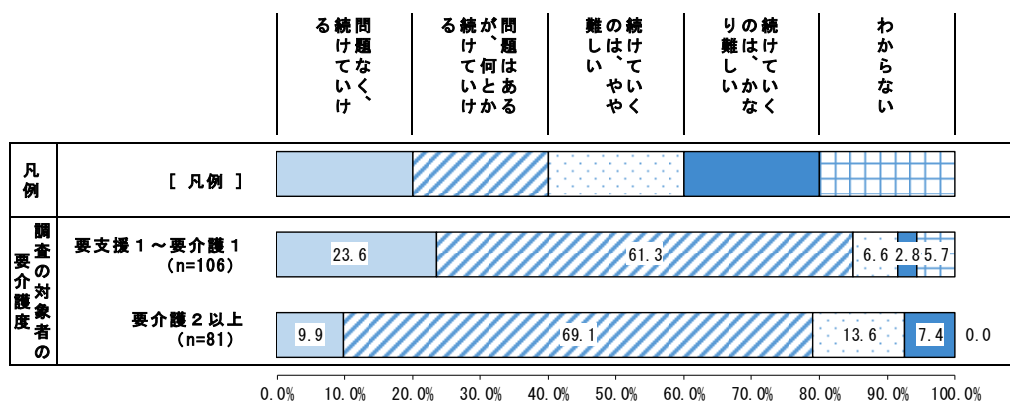
- 要介護2以上では要介護1以下に比べて「問題なく、続けていける」が少なく、「続けていくのは、かなり難しい」が3.5%となっています。

【今後の仕事と介護の両立】

【今回調査（R8 年度）】



【前回調査（R5 年度）】



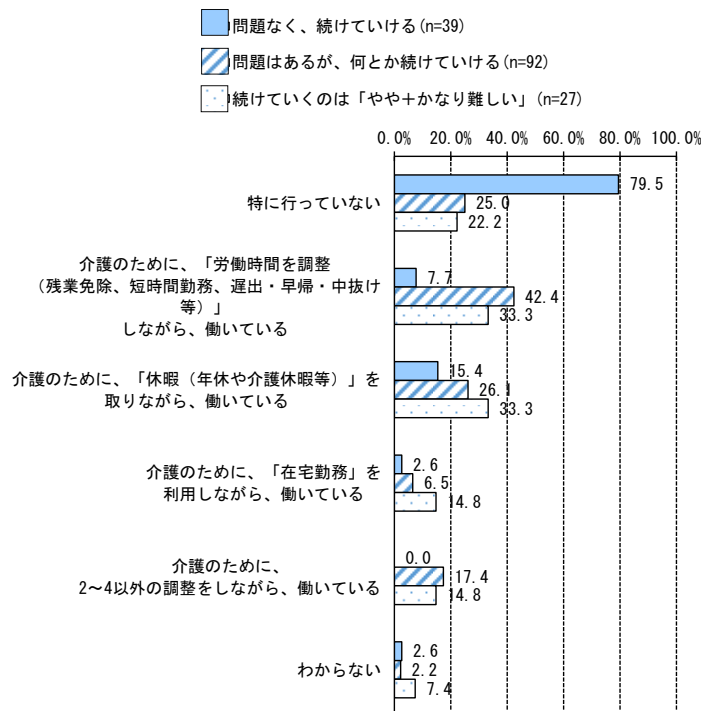
② 就労継続のために必要な支援

【今後の仕事と介護の両立】

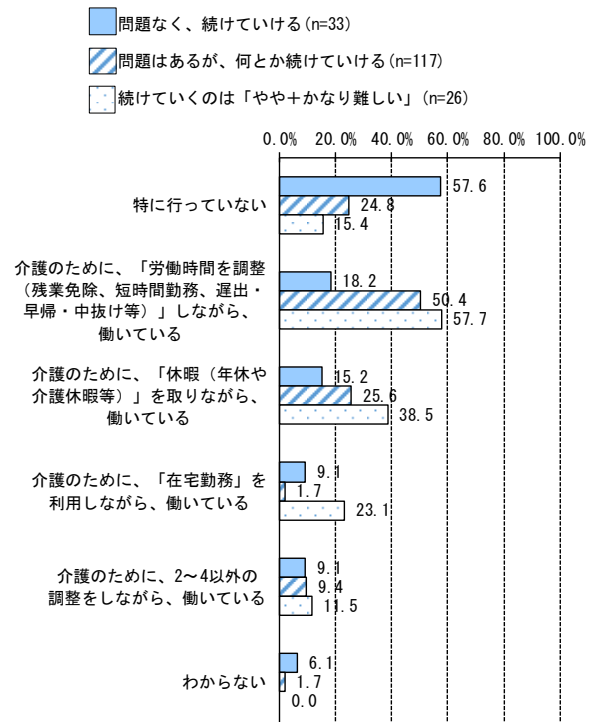
- 問題なく、続けていける人では、働き方の調整を「特に行っていない」が 79.5%であるのに対し、問題はあるが、何とか続けていける人、続けていくのは「やや＋かなり」難しい人では2～3割となっています。
- 問題はあるが、何とか続けていける人、続けていくのは「やや＋かなり」難しい人では、「介護のために労働時間を調整しながら働いている」「介護のために休暇を取りながら働いている」が多くなっています。
- 続けていくのは「やや＋かなり」難しい人では、「介護のために在宅勤務を利用しながら働いている」が他の区分に比べて多くなっています。
- 前回調査と比べると、問題はあるが、何とか続けていける人、続けていくのは「やや＋かなり」難しい人ともに「介護のために労働時間を調整しながら働いている」が少なくなっています。

【働き方の調整 (MA)】

〔今回調査 (R8 年度)〕



〔前回調査 (R5 年度)〕

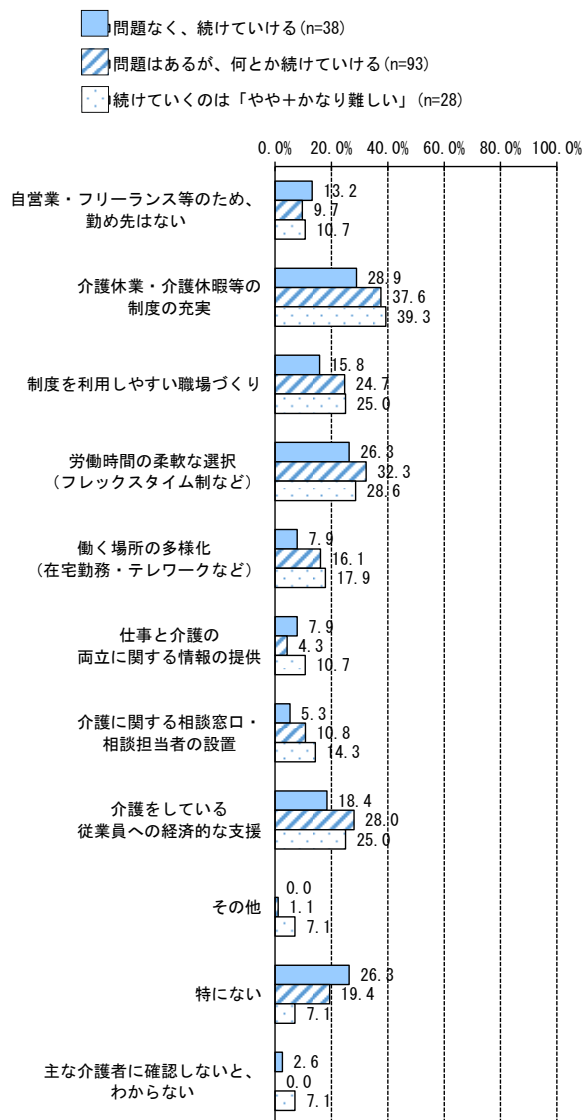


【今後の仕事と介護の両立】

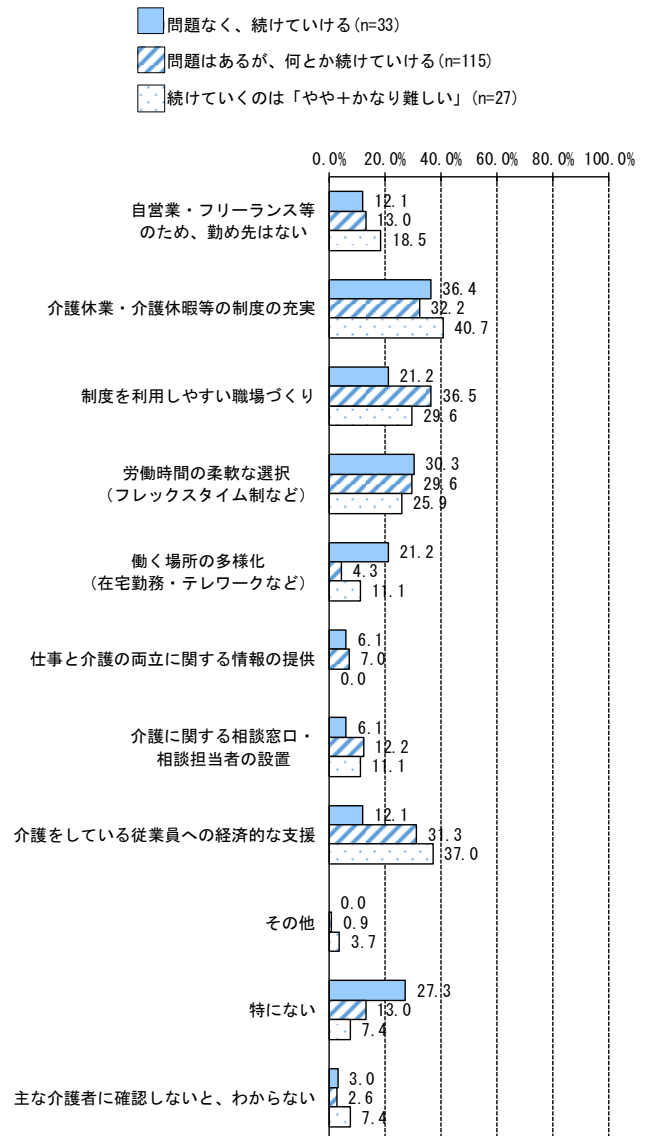
- 就労の継続に問題がある人では問題がない人に比べて、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」が多くなっています。
- 就労の継続が困難になるほど「特にない」が少なくなる傾向がみられます。
- 前回調査と比べると、問題なく、続けていける人で「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」が少なくなっています。

【仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援(3LA)】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

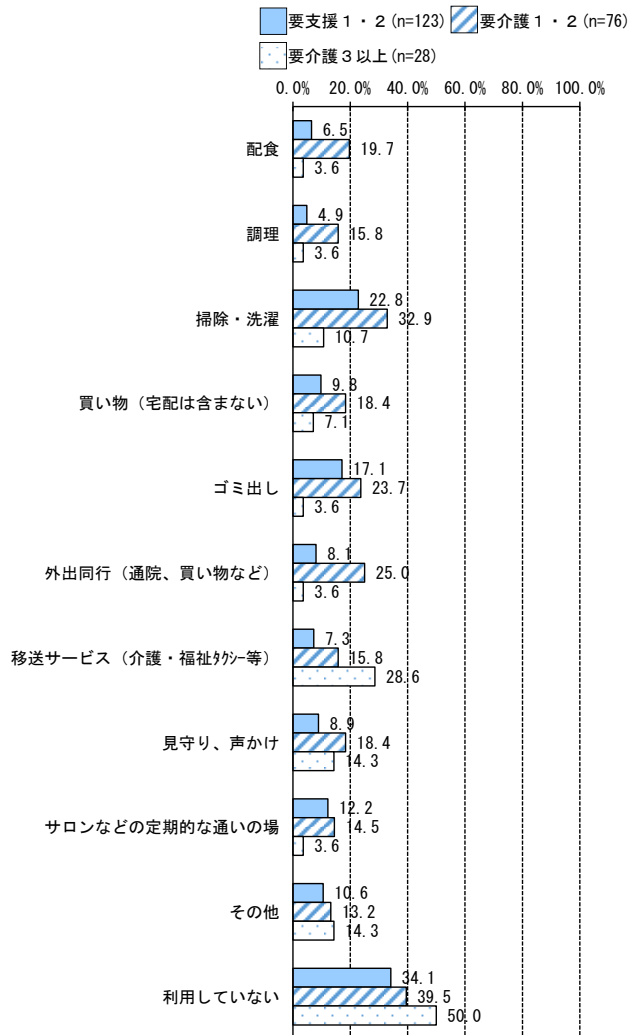
① 保険外の支援・サービスの利用状況

【要介護度】

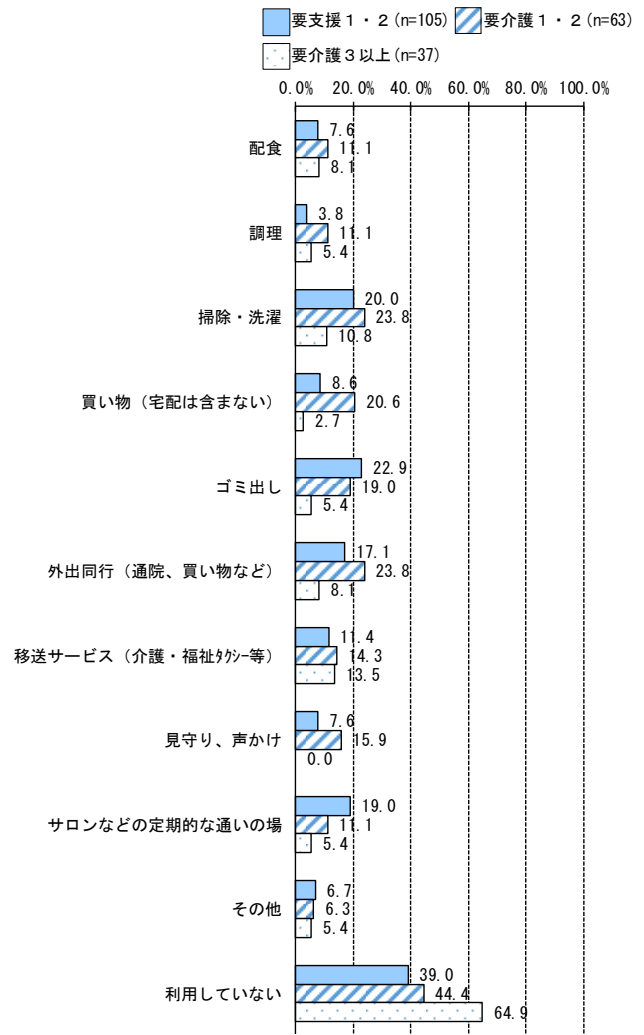
- 単身世帯では、要介護度が高くなるほど「利用していない」が多くなる傾向がみられます。要介護2以下で、「掃除・洗濯」「ゴミ出し」が2～3割と多くなっています。
- 前回調査と比べると、要介護3以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り・声かけ」が多くなっています。

【「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況(MA) 要介護度（単身世帯）】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕

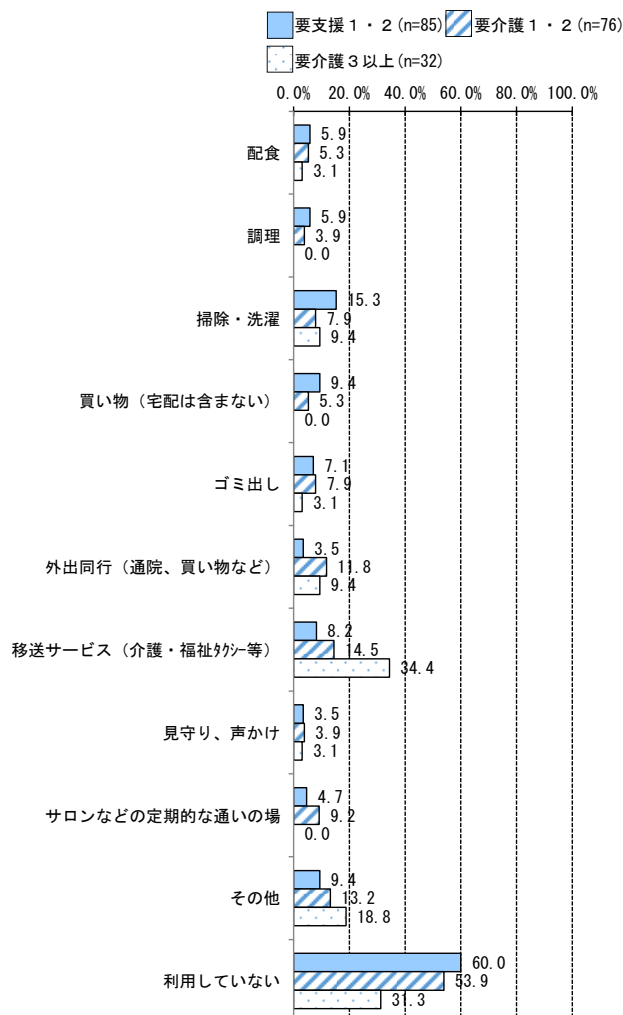


【要介護度】

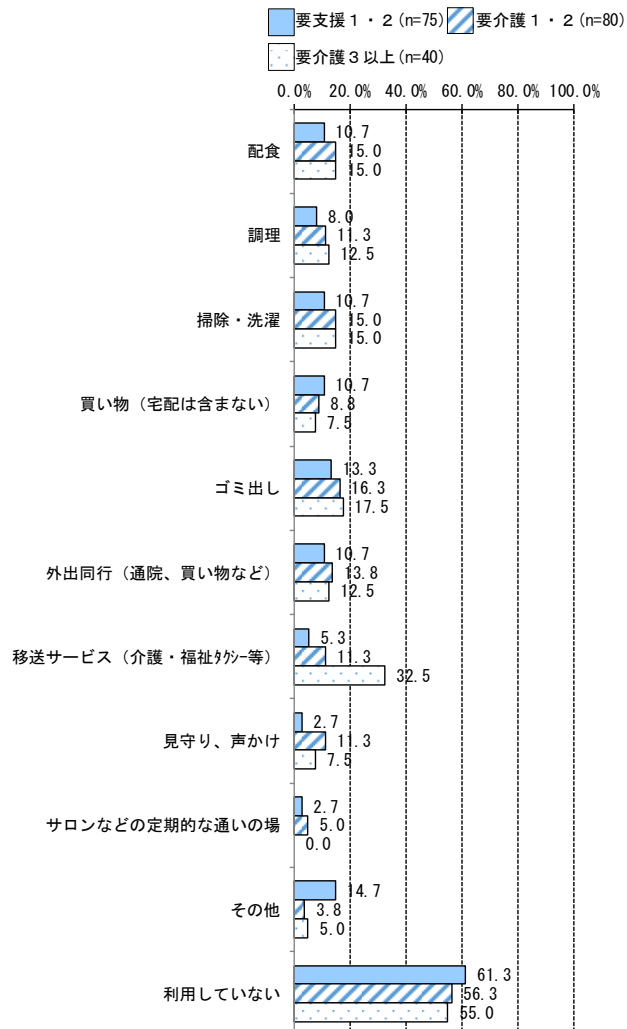
- 夫婦のみ世帯では、要支援１・２で「利用していない」が６割と多くなっています。要介護３以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が３４．４％で最も多くなっています。

【「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況(MA) 要介護度（夫婦のみ世帯）】

〔今回調査（R8年度）〕



〔前回調査（R5年度）〕



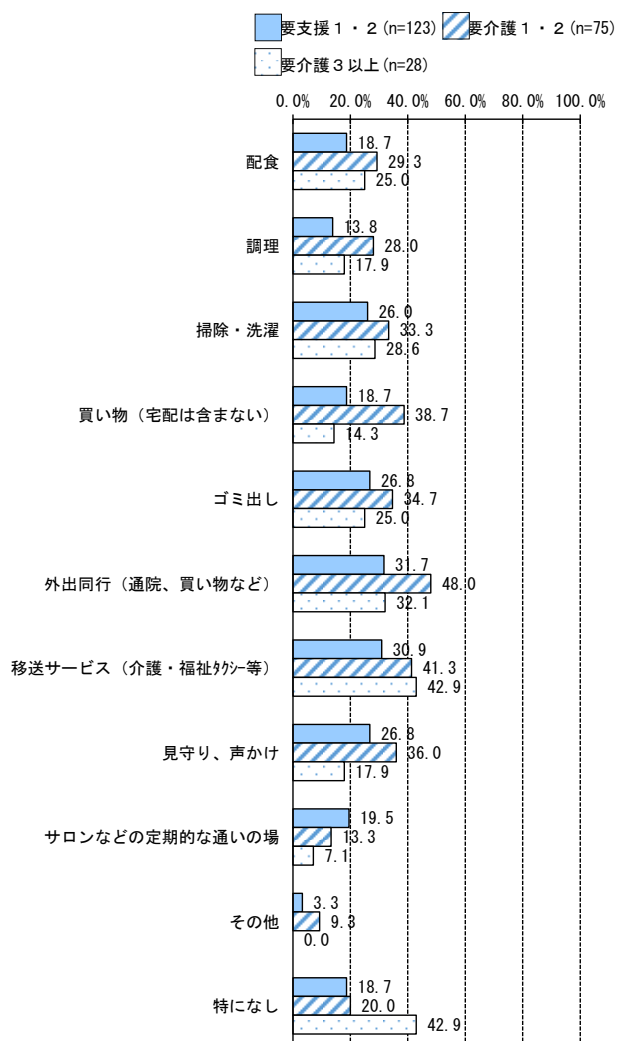
② 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

【要介護度】

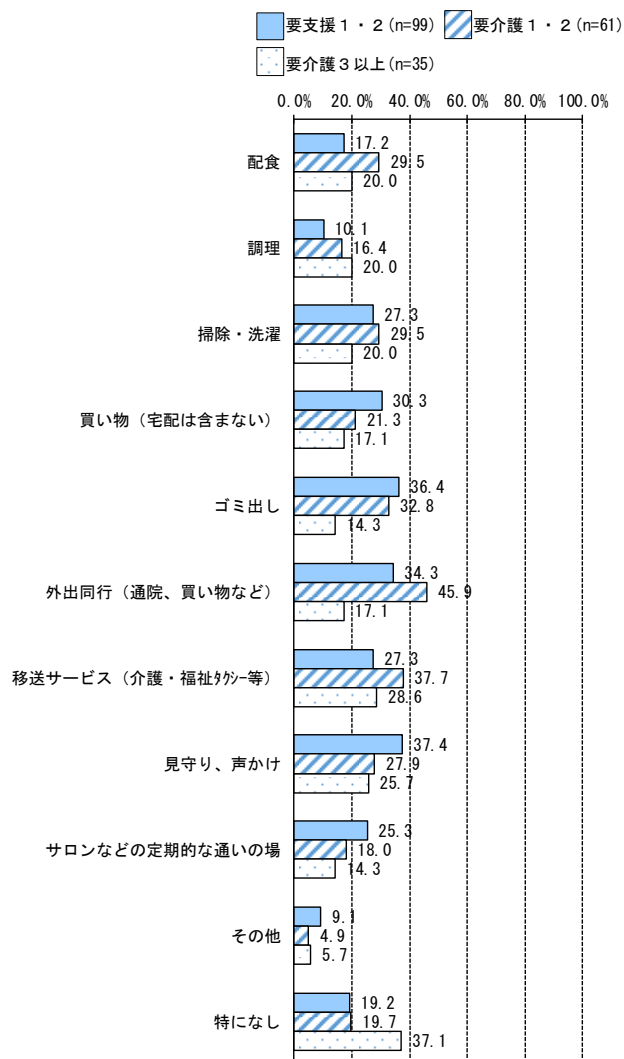
- 単身世帯では、要介護2以下で「特になし」が約2割であるのに対し、要介護3以上では4割以上と多くなっています。
- 「買い物（宅配は含まない）」「外出同行（通院、買い物など）」「見守り、声かけ」は単身世帯の要介護1・2で特に多くなっています。
- 前回調査と比べると、要支援1・2では「買い物（宅配は含まない）」が少なくなっており、要介護3以上では「ゴミ出し」「外出同行（通院・買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が多くなっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス(MA) 要介護度（単身世帯）】

〔今回調査（R8年度）〕



〔前回調査（R5年度）〕

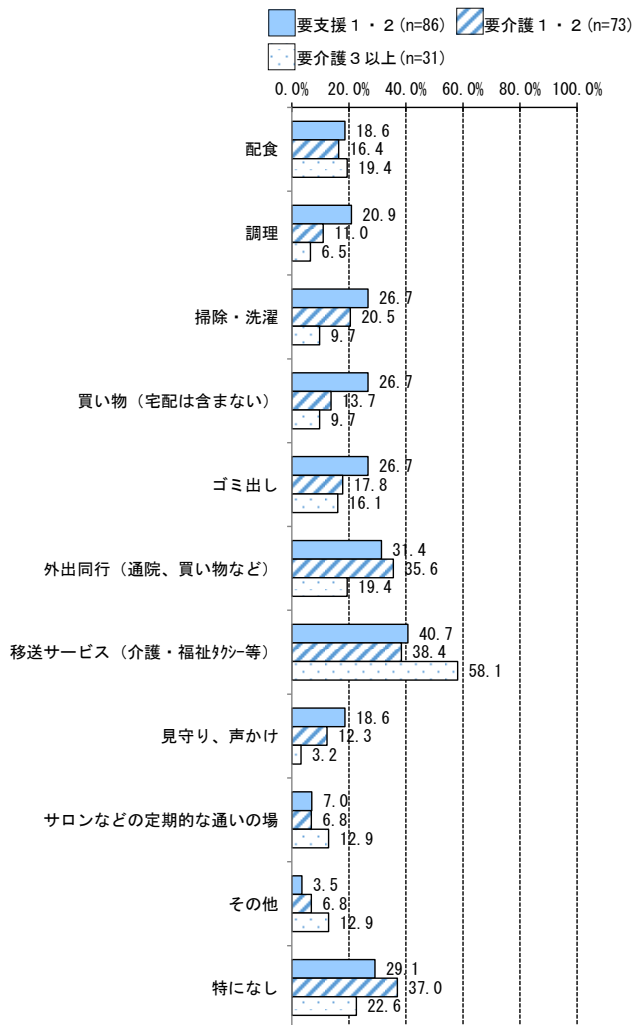


【要介護度】

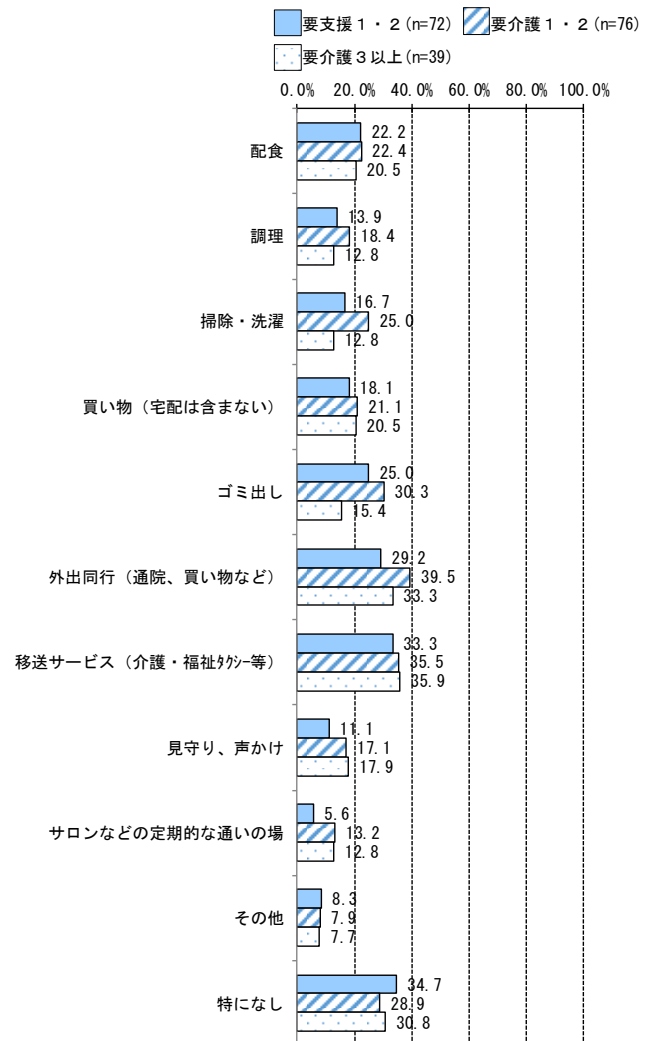
- 夫婦のみ世帯では、要介護１・２で「特になし」が約４割と多くなっています。
- 要介護３以上では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が58.1%と多くなっています。
- 前回調査と比べると、要支援１・２では「調理」「掃除・洗濯」「買い物（宅配は含まない）」などが多くなっており、要介護１・２では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」を除いて、他の全てのサービスが少なくなっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス(MA) 要介護度（夫婦のみ世帯）】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



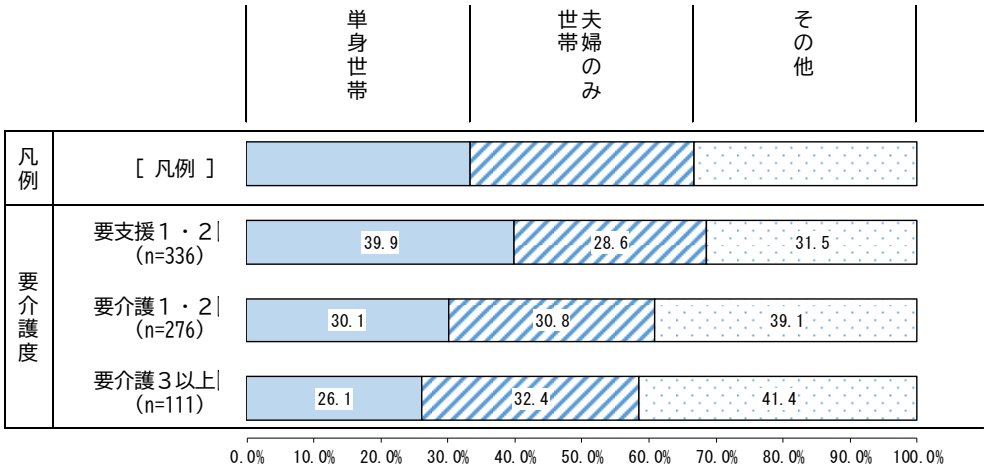
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

① 世帯類型と要介護度

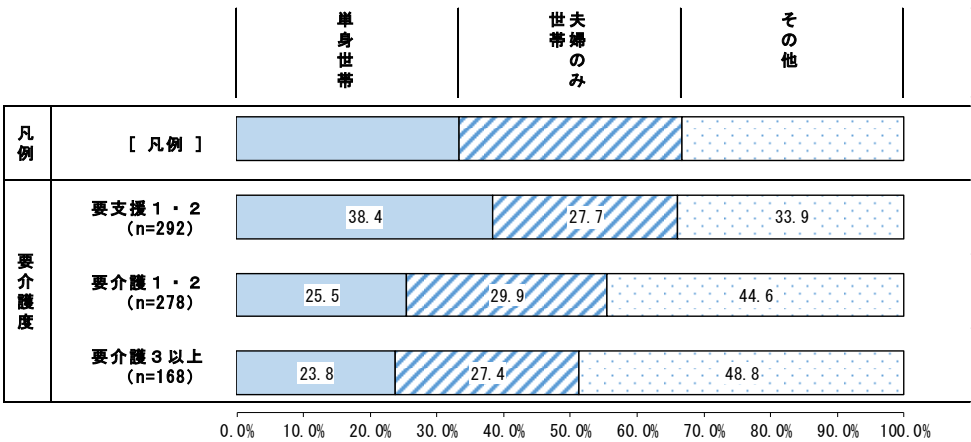
【要介護度】
○ 要介護度が高くなるほど「単身世帯」が少なく「その他」が多くなる傾向がみられます。

【世帯類型】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕

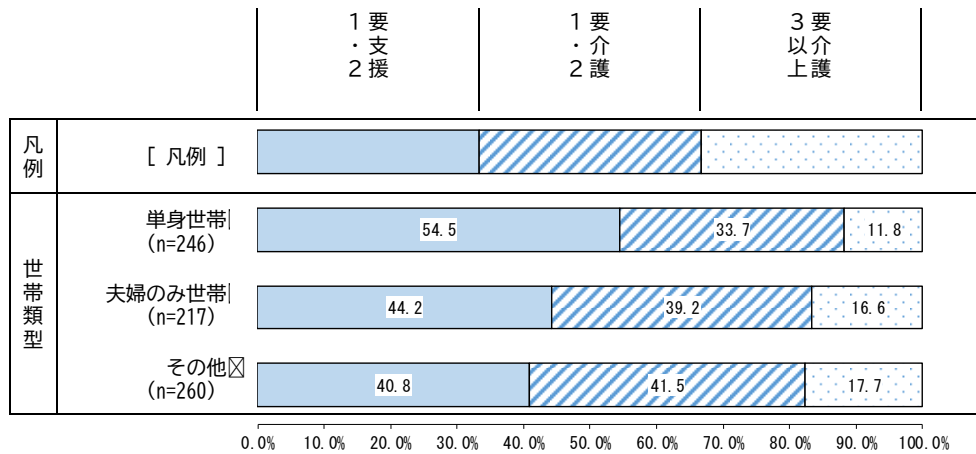


【世帯類型】

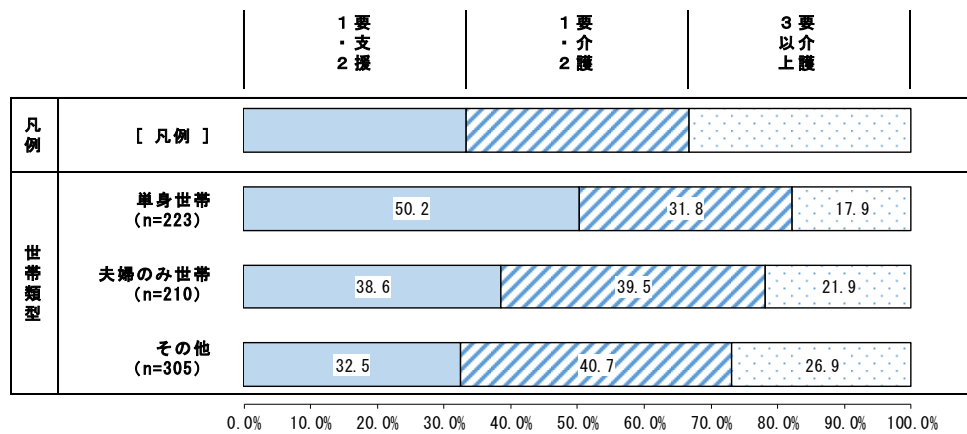
- 「要介護3以上」は、単身世帯では11.8%、夫婦のみ世帯では16.6%となっています。
- 前回調査と比べると、いずれの区分でも「要介護3以上」が少なくなっています。

【要介護度】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]



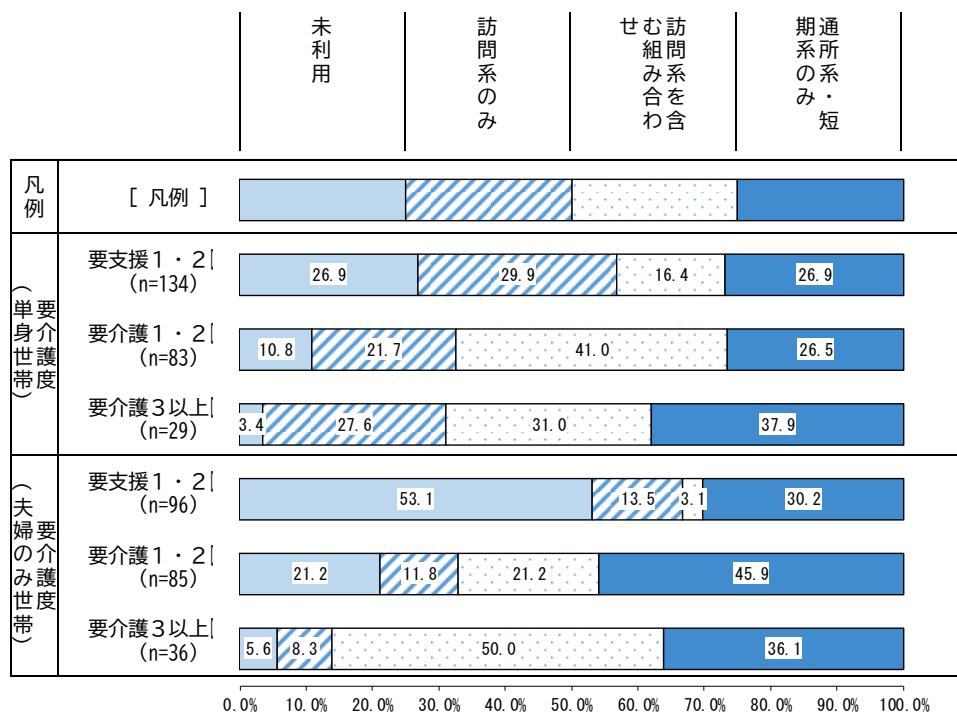
② 世帯類型ごとのサービス利用の特徴

【要介護度（世帯類型別）】

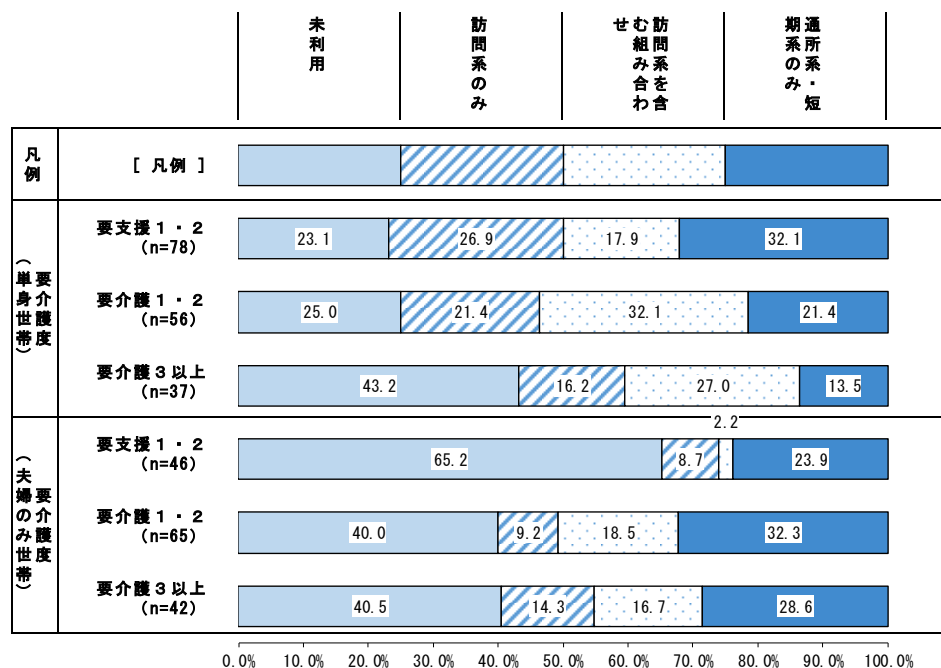
- 単身世帯、夫婦のみ世帯ともに要介護度が高いほど「未利用」が少なくなっています。
- 単身世帯の要介護2以下では「訪問系を含む組み合わせ」が夫婦のみ世帯に比べて多くなっていますが、要介護3以上では少なくなっています。
- 前回調査と比べると、単身世帯、夫婦のみ世帯ともに要介護1以上で「訪問系を含む組み合わせ」が多くなっています。

【サービス利用の組み合わせ】

[今回調査（R8 年度）]



[前回調査（R5 年度）]



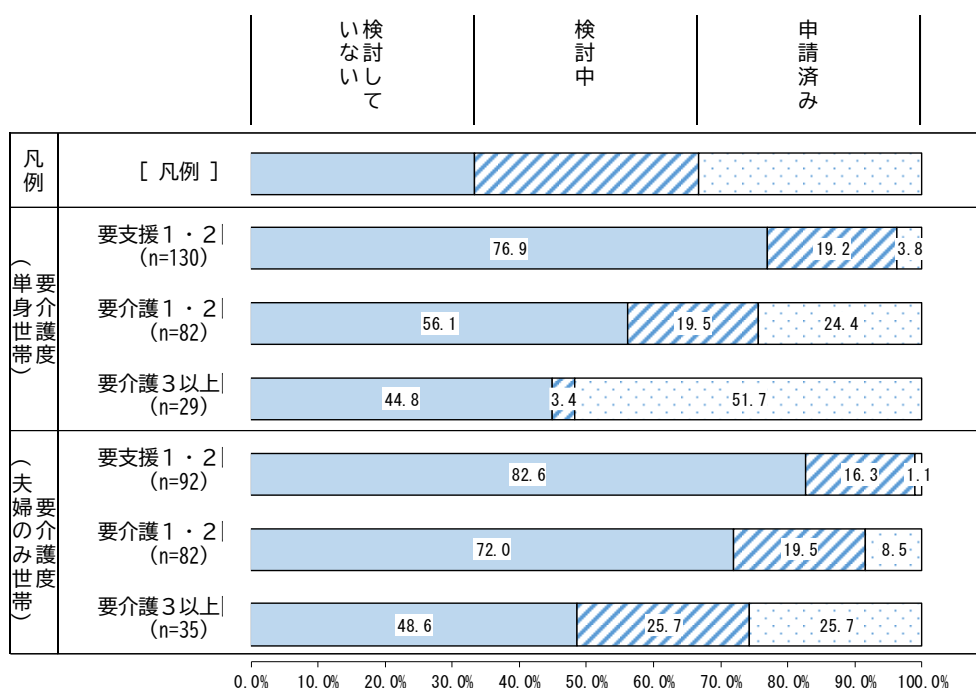
③ 世帯類型ごとの施設等のニーズ

【要介護度（世帯類型別）】

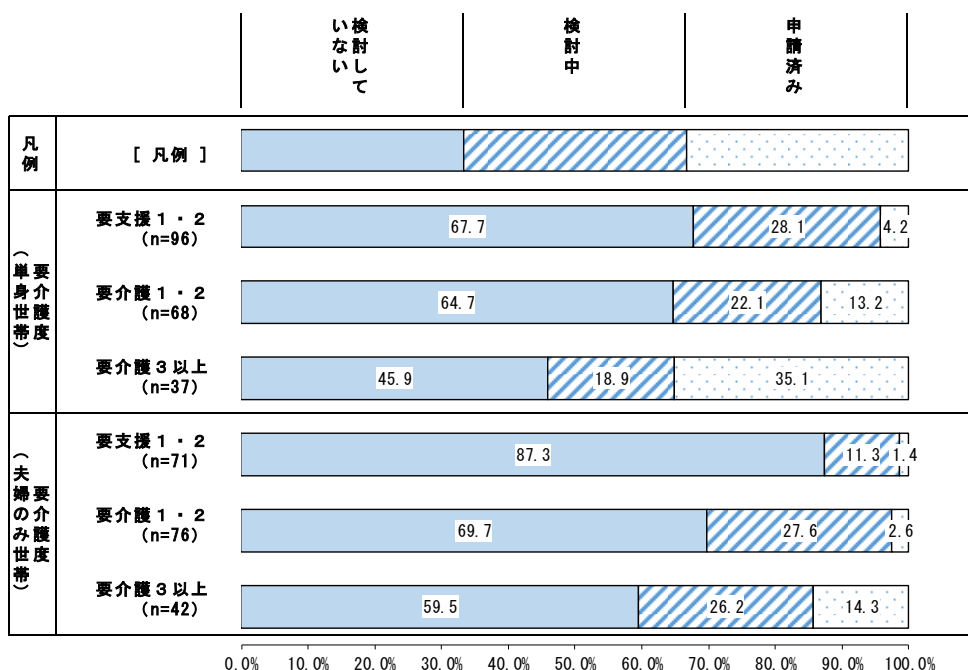
- 単身世帯では夫婦のみ世帯に比べて、いずれの要介護度でも「申請済み」が多くなっています。
- 単身世帯では要介護3以上で「申請済み」が急増するのに対し、夫婦のみ世帯では要介護3以上でも25.7%となっています。
- 前回調査と比べると、単身世帯では要支援1・2で、夫婦のみ世帯では要介護1・2で「検討していない」が多くなっています。

【施設等への入所・入居の検討状況】

[今回調査（R8 年度）]



[前回調査（R5 年度）]



(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

① 医療ニーズの高い在宅療養者

【要介護度】

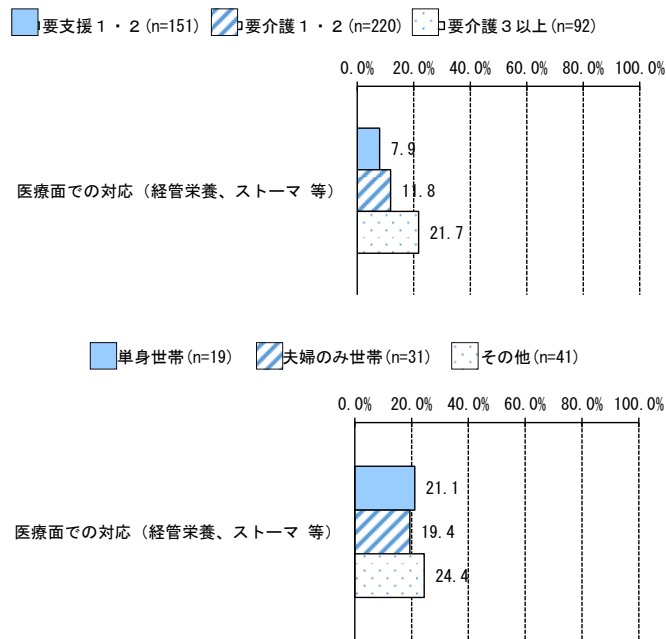
- 要支援１・２、要介護１・２では「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」を行っている人は約１割であるのに対し、要介護３以上では21.7%となっています。

【世帯類型（要介護３以上）】

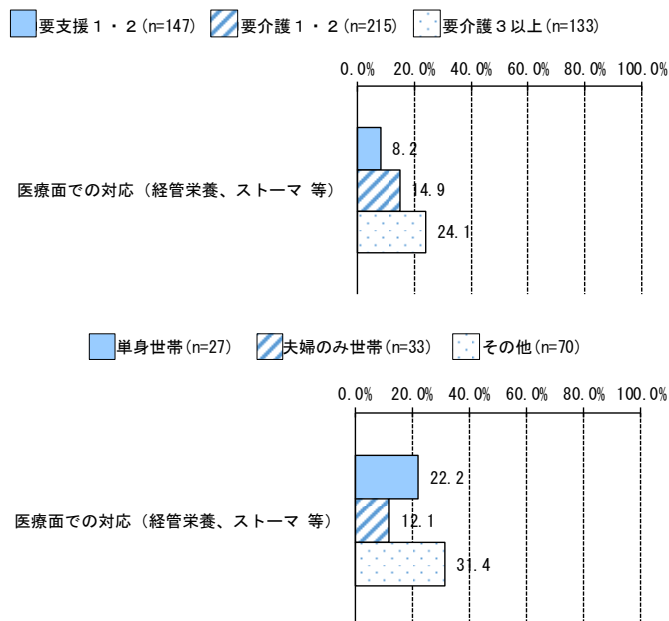
- 単身世帯では21.1%となっています。

【主な介護者が行う介護(MA)（医療面での対応のみ抜粋）】

[今回調査（R8 年度）]



[前回調査（R5 年度）]



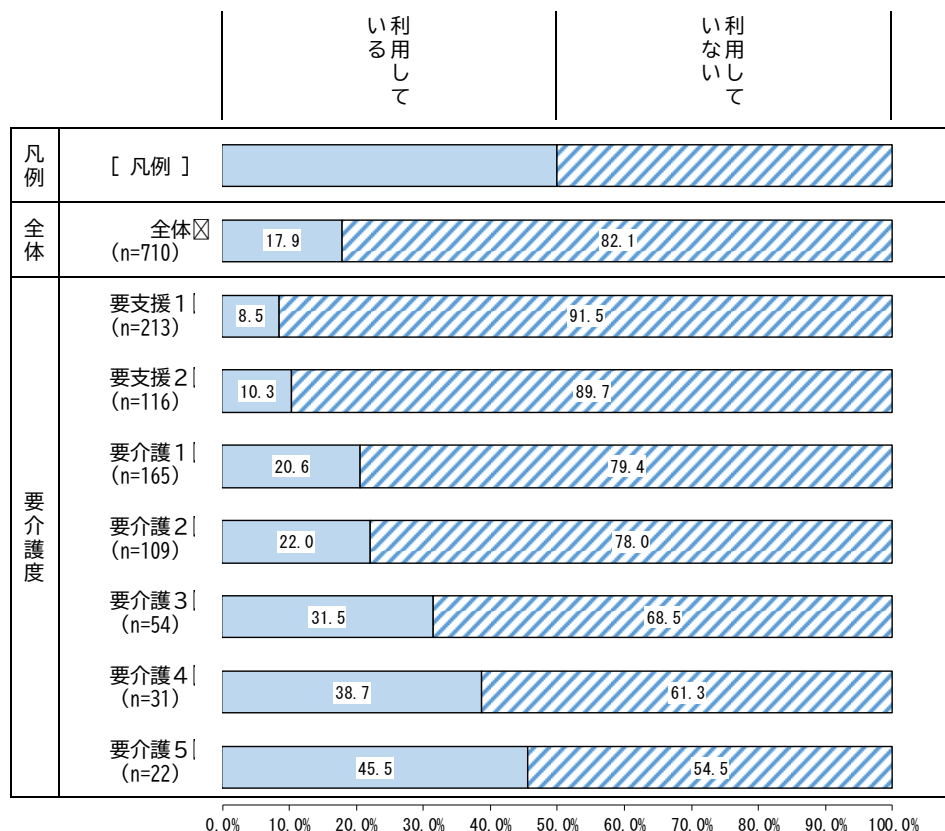
② 訪問診療利用者におけるサービス利用の特徴

【要介護度】

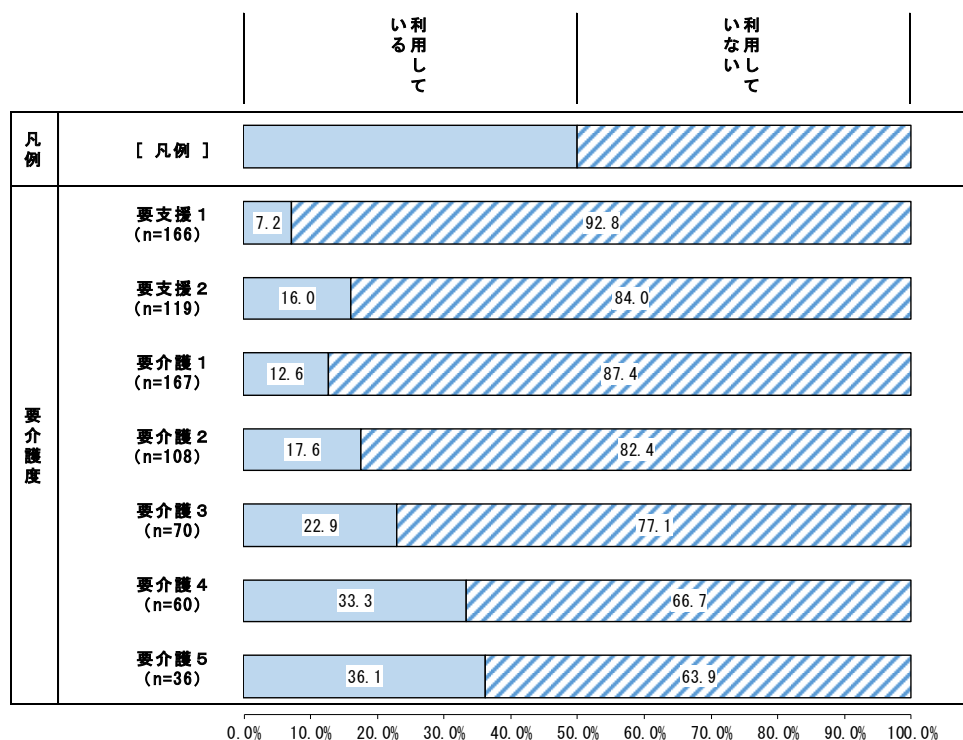
- 要介護度が高くなるほど「利用している」が多くなる傾向がみられ、要介護3以上では3割以上となっています。

【訪問診療の利用状況】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]

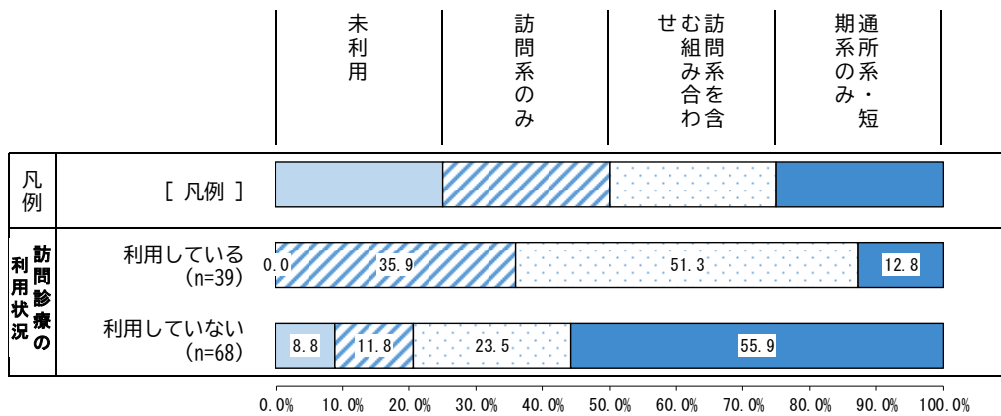


【サービスの利用状況（要介護3以上）】

- 要介護3以上で訪問診療を利用している人では利用していない人に比べて、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」が多くなっています。

【サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】

【今回調査（R8 年度）】



【前回調査（R5 年度）】

